

2022（令和4）年度事業報告書

—2022年4月1日～2023年3月31日—



学校法人 聖隷学園

目次

1	法人の概要	…	1 頁
	(1) 基本情報	…	1 頁
	(2) 建学の精神	…	1 頁
	(3) 学校法人の沿革	…	2 頁
	(4) 設置する学校・学部・学科等	…	3 頁
	(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況	…	4 頁
	(6) 収容定員充足率	…	5 頁
	(7) 役員の概要	…	6 頁
	(8) 評議員の概要	…	8 頁
	(9) 教職員の概要	…	9 頁
2	事業の概要	…	10 頁
	(1) 主な教育・研究の概要	…	11 頁
	(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等） 及び事業計画の進捗・達成状況	…	31 頁
	(3) 施設等の状況	…	74 頁
3	財務の概要	…	75 頁
	(1) 決算の概要	…	75 頁
	(2) その他	…	81 頁
	(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、 今後の方針・対応方策	…	86 頁

1 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 聖隷学園
静岡県浜松市北区三方原町3453
電話(代表) 053-436-5311
FAX 053-436-5355
H P <https://www.seirei.ac.jp/gakuen>

(2) 建学の精神

◆ 基本理念 「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」

聖隷学園は「生命の尊厳を守り、自分のように隣人を愛する」というイエス・キリストの愛を基本理念としています。

イエス・キリストが自ら弟子の足を洗い手本を示されたように、行って同じようにすること、人と共にあり、共に生きることを人生の目的と喜びとすること、病人や障害を持つ人、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーが危険をおかし、命がけでイエス・キリストを背負ってライン河を渡ったように、これらの人々を大事にケアする人材が本学園から育つことを願っています。聖隷学園が教育環境の充実を図っていく中で願うことは、聖隷学園が地域の人々にとって役に立つ学園であってほしいということです。地域社会における医療・保健・福祉の質の向上に貢献する人材、さらには、アメリカ・ヨーロッパや開発途上国で国際的に活躍する人材が巣立っていくことを期待しています。

◆ 聖隷とは

新約聖書のヨハネによる福音書第13章に、最後の晩餐のとき、キリストは「食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」とあります。当時、人の足を洗うことは奴隷の仕事でしたが、キリストは弟子たちに行動を以って最後の教を示しました。「聖隷」の名はこの箇所由来しています。1926年(大正15年)4月、長谷川保らクリスチャンの若者たちは、奴隷の形をとって弟子たちの足を洗われるキリストの姿をクリスチャンの理想の生き方と考え、自分たちもキリストに倣い、「聖なる神の奴隷」となって世の人々に仕える生き方をしようと社会福祉事業を目的として聖隷社を創立。ここから「聖隷」の歴史が始まりました。

◆ クリストファーとは

「クリストファーChristopher」は、「キリストを運ぶもの・担うもの」という意味で、3世紀半ば頃の半伝説的殉教者の名前です。クリストファー伝説は、6世紀以後主にライン川流域に広がり、今なお欧州各地において多くの関心と尊敬を集め語り継がれています。伝説によれば、川の渡し守が、嵐の夜、小さい男の子が向こう岸に渡りたいというので、肩車をして渡すと川中で次第に重くなり、やっとの思いで向こう岸に着いたということです。岸に着いてみると、それはキリストであったといわれます。「重くなった」ということに2つの意味があるといわれています。一つは、この世の人々の苦しみ、悲しさの総量を表します。二つには、夜の早瀬や深みを渡るとき、自分より重いものを荷わなければ、自分自身も流れにのみこまれてしまう、ということです。以後キリスト教の精神を担うことの高貴さを表す名称となり、ヨーロッパ諸国に広まりました。

聖隷の創立者・長谷川保は、病人や障害者、お年寄りの不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーがキリストを背負ったように、これらの人々を大事にケアする人が育ってほしいとの願いから「聖隷クリストファー」と命名しました。

◆ シンボルマークの由来



聖隷のシンボルマークは故アルバート・アットウェル（アメリカ人、1978～1981年聖隷学園に奉職）により1980年に考案されました。外側の二重円は、最後の晩餐で主イエス・キリストが弟子たちの足を洗った「たらい」を表現。内側の3つの円は、聖隷グループが使命とする医療（赤）、福祉（緑）、教育（青）を象徴しています。中央の十字架はキリスト教を示し、聖隷のすべての事業がキリスト教会の中から始まったことを示しています。

(3) 学校法人の沿革

1930年	ベテルホームに結核患者収容開始
1936年	浜松市三方原町の県有地7ヘクタール（21,000坪）払下げになる
1939年	迫害が激しくおこり経営困難極まる 12月天皇陛下より特別御下賜金を受ける
1949年	各種学校遠州キリスト学園開設
1952年	聖隷准看護婦養成所開設
1966年	学校法人聖隷学園設立 聖隷学園高等学校設置
1969年	聖隷学園浜松衛生短期大学設置
1980年	聖隷学園浜松衛生短期大学専攻科助産学特別専攻開設
1988年	聖隷介護福祉専門学校設置
1992年	聖隷クリストファー看護大学看護学部設置
1998年	聖隷クリストファー看護大学大学院看護学研究科（修士課程）設置
2001年	聖隷学園高等学校を「聖隷クリストファー高等学校」に名称変更
2002年	大学に社会福祉学部を増設し、「聖隷クリストファー大学」に名称変更 短期大学を「聖隷クリストファー大学看護短期大学部」とする
2003年	聖隷クリストファー高等学校移転改築
2004年	大学にリハビリテーション学部、大学院に社会福祉学研究科（修士課程）を設置 看護短期大学部看護学科を募集停止し、看護学部を定員増
2006年	大学院にリハビリテーション科学研究科（修士課程）を設置 高等学校に英数科を設置
2007年	聖隷クリストファー大学看護短期大学部専攻科助産学特別専攻を廃止し、 大学に助産学専攻科を設置
2008年	大学院に保健科学研究科（博士後期課程）を設置 大学社会福祉学部にごども教育福祉学科を設置
2009年	聖隷クリストファー中学校設置
2010年	大学看護学部に養護教諭課程開設

2011 年	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園開設 大学社会福祉学部を社会福祉学科、臨床介護福祉学科及びこども教育福祉学科に改編 大学リハビリテーション学部を理学療法学科、作業療法学科及び言語聴覚学科に改編 大学院を看護学研究科、社会福祉学研究科、リハビリテーション科学研究科の 各博士前期課程・博士後期課程に改編
2013 年	大学社会福祉学部臨床介護福祉学科を、「介護福祉学科」に名称変更 大学院保健科学研究科廃止
2016 年	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校開設
2019 年	大学社会福祉学部こども教育福祉学科に小学校教諭課程開設
2020 年	聖隷クリストファー小学校開設
2022 年	聖隷クリストファー中学校「中高一貫コース」「グローバルスクールコース」制導入

(4) 設置する学校・学部・学科等 (2022 年 5 月 1 日現在)

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘要
聖隷クリストファー大学	1992 年	看護学部	看護学科	
	2007 年	助産学専攻科		
	2002 年	社会福祉学部	社会福祉学科	2011 年度より 3 学科に改編 2013 年度「臨床介護福祉学科」を「介護福祉学科」に名称変更
	2008 年		こども教育福祉学科	
	2011 年		介護福祉学科	
	2004 年	リハビリテーション学部	理学療法学科	2011 年度より 3 学科に改編
			作業療法学科	
			言語聴覚学科	
	1998 年	大学院看護学研究科 博士前期課程 (修士課程)		
	2011 年	大学院看護学研究科 博士後期課程		
	2004 年	大学院社会福祉学研究科 博士前期課程 (修士課程)		
	2011 年	大学院社会福祉学研究科 博士後期課程		
2006 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士前期課程 (修士課程)			
2011 年	大学院リハビリテーション科学研究科 博士後期課程			
聖隷クリストファー大学 介護福祉専門学校	2016 年	介護福祉学科		
聖隷クリストファー 高等学校	1966 年	普通科		1974 年衛生看護科から移行
	2006 年	英数科		

設置する学校	開設年	学部等	学科・専攻等	摘要
聖隷クリストファー 中学校	2009年			
聖隷クリストファー 小学校	2020年			
聖隷クリストファー大学 附属 クリストファーこども園	2011年			

(5) 学校・学部・学科等の学生・生徒・児童・園児数の状況 (2022年5月1日現在)

◆聖隷クリストファー大学・大学院

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	収容 定員	在 籍 者 数					
				1年	2年	3年	4年	合計	
大 学 院	看護学研究科	15	5	35	5	15	13	-	33
	博士前期課程	10	4	20	4	11	-	-	15
	博士後期課程	5	1	15	1	4	13	-	18
	社会福祉学研究科	13	1	29	1	5	10	-	16
	博士前期課程	10	1	20	1	4	-	-	5
	博士後期課程	3	0	9	0	1	10	-	11
	リハビリテーション科学研究科	20	7	45	7	18	7	-	32
	博士前期課程	15	5	30	5	15	-	-	20
	博士後期課程	5	2	15	2	3	7	-	12
大学院合計	48	13	109	13	38	30	-	81	
大 学	看護学部	150	160	600	160	155	152	158	625
	看護学科	150	160	600	160	155	152	158	625
	助産学専攻科	15	17	15	17	-	-	-	17
	社会福祉学部	120	86	450	86	77	100	94	357
	社会福祉学科 (※1)	65+15	52	265	52	46	57	48	203
	介護福祉学科 (※2)	-	-	25	-	-	-	16	16
	こども教育福祉学科	40	34	160	34	31	43	30	138
	リハビリテーション学部	95	106	380	106	108	105	123	442
	理学療法学科	40	43	160	43	52	45	55	195
	作業療法学科	30	38	120	38	27	32	37	134
	言語聴覚学科	25	25	100	25	29	28	31	113
	大学合計	380	369	1,445	369	340	357	375	1,441
総合計	428	382	1,554	382	378	387	375	1,522	

※1・・・+15は編入学生 4年次の入学定員は40

※2・・・介護福祉学科は社会福祉学科に統合

◆聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

(単位：人)

	入学 定員	入学 者数	収容 定員	在 籍 者 数		
				1年	2年	合計
介護福祉学科	40	22	80	22	26	48
総合計	40	22	80	22	26	48

◆聖隷クリストファー高等学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数			
				1年	2年	3年	合計
英数科	94	62	282	62	53	49	164
普通科	200	299	600	299	323	270	892
総合計	294	361	882	361	376	319	1,056

◆聖隷クリストファー中学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数			
				1年	2年	3年	合計
中高一貫コース	70	38	210	38	43	22	103
グローバルスクールコース		15		15	—	—	15
総合計	70	53	210	53	43	22	118

◆聖隷クリストファー小学校

(単位：人)

	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
総合計	60	45	270	45	50	49	26	25	21	216

◆聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

(単位：人)

	総定員	在籍者数							合計
		0歳	1歳	2歳	満3歳	3歳	4歳	5歳	
定員	225	15	15	15		60	60	60	225
1号認定	135				1	48	42	51	142
2.3号認定	90	3	14	15		14	17	14	77
総合計		3	14	15	1	62	59	65	219

(6) 収容定員充足率（毎年度5月1日現在）

学校名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
聖隷クリストファー大学	97.2%	97.9%	99.2%	99.0%	97.9%
聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	56.3%	58.8%	53.8%	57.5%	60.0%
聖隷クリストファー高等学校	93.0%	89.1%	96.7%	110.9%	119.7%
聖隷クリストファー中学校	68.1%	69.0%	57.6%	57.1%	56.2%
聖隷クリストファー小学校 ※2020年度開校	—	—	76.7%	74.6%	80.0%
聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園	97.8%	99.1%	100.8%	95.6%	97.3%

(7) 役員概要

2023年3月31日現在
定員数 理事13名、監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	長谷川 了	常 勤	1980年3月29日理事就任 1980年4月専務理事就任 1989年4月理事長就任
専務理事	小柳 守弘	常 勤	2006年5月25日理事就任 2006年11月法人事務局長就任 2012年11月専務理事就任（法人事務局長兼任）
理 事	大城 昌平	常 勤	2017年4月聖隷クリスティーア大学学長就任 2013年5月23日理事就任
理 事	上村 敏正	常 勤	2020年4月聖隷クリスティーア中・高等学校校長就任 2020年4月1日理事就任
理 事	永井 英司	常 勤	2013年4月聖隷学園宗教主任就任 2016年11月24日理事就任
理 事	藤本 栄子	常 勤	2016年4月聖隷クリスティーア大学看護学部長就任 2016年5月26日理事就任
理 事	太田 雅子	常 勤	2022年4月聖隷クリスティーア小学校校長就任 2012年5月24日理事就任
理 事	新宮 尚人	常 勤	2017年4月聖隷クリスティーア大学リハビリテーション学部長就任 2022年5月26日理事就任
理 事	田島 忠和	非常勤	2021年4月1日理事就任 （東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長）
理 事	青木 善治	非常勤	2021年4月1日理事就任 （聖隷福祉事業団理事長）
理 事	荻野 和功	非常勤	2003年4月1日理事就任 （聖隷三方原病院院長）
理 事	岡 俊明	非常勤	2018年11月28日理事就任 （聖隷浜松病院院長）
理 事	砂原 和仁	非常勤	2020年5月28日理事就任 （東京海上ホールディングス株式会社 人事部ウェルネス支援グループ シニアマスター）
監 事	平井 章	非常勤	2011年4月1日監事就任 （前 十字の園理事長）
監 事	三輪 久夫	非常勤	2021年12月1日監事就任 （浜松磐田信用金庫 専務理事）

前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要

2022年3月31日以降の異動状況

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
【退任】			
理 事	横尾 恵美子	常 勤	2022年3月理事 退任
【就任】			
理 事	新宮 尚人	常 勤	2022年4月理事 就任

役員賠償責任保険契約の状況(2023年3月31日現在)

対象役員	契約内容の概要
理事・監事	契約者(団体)：日本私立大学協会 加入期間：1年(2022年4月1日 午後4時～2023年4月1日 午後4時) 保険期間中総支払限度額：3億円 免責金額：0円

責任限定契約の状況(2023年3月31日現在)

対象役員	契約内容の概要
田島 忠和	責任限度額：10万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
青木 善治	責任限度額：24万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
荻野 和功	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
岡 俊明	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
砂原 和仁	責任限度額：10万円 (学校法人聖隷学園寄附行為 第14条に基づき定めた額)
平井 章	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)
三輪 久夫	責任限度額：24万円 (私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額：理事の年間報酬額に2を乗じた額)

(8) 評議員の概要

2023年3月31日現在
定員数 27名

氏名	就任年月日	主な現職等
長谷川 了	1979年 7月 8日	学校法人聖隷学園 理事長
小柳 守弘	2003年 4月 1日	学校法人聖隷学園 専務理事・法人事務局長
大城 昌平	2013年 4月 1日	聖隷クリストファー大学 学長
上村 敏正	2017年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 校長
藤本 栄子	2016年 5月 26日	聖隷クリストファー大学看護学部 学部長
太田 雅子	2012年 5月 24日	聖隷クリストファー小学校 校長
新宮 尚人	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部 学部長
田島 忠和	2021年 4月 1日	東京海上日動火災保険株式会社 浜松支店長
大野 和男	2017年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 宗教部長
野田 由佳里	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 校長
武田 真理子	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 園長
柴本 勇	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科長 (大学院三研究科長代表)
敷浪 いづみ	2016年 5月 26日	聖隷クリストファー中・高等学校 教頭
中村 憲司	2010年 5月 27日	聖隷クリストファー大学 総務部長
鈴木 聡	2012年 11月 28日	聖隷クリストファー小学校 総務部長
茨城 久一郎	2021年 4月 1日	聖隷クリストファー中・高等学校 副校長
紅谷 純	2018年 5月 24日	聖隷クリストファー大学 同窓会会長
木村 忠雄	2007年 4月 1日	聖隷クリストファー大学 同窓会副会長
中村 純子	2018年 5月 24日	聖隷クリストファー高等学校 同窓会長
重松 明広	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー大学・介護福祉専門学校 後援会長
岩下 真康	2022年 5月 26日	聖隷クリストファー中・高等学校 P T A会長
長澤 道子	2003年 4月 1日	(社)牧ノ原やまばと学園 理事長
藤島 一郎	2005年 4月 1日	浜松市リハビリテーション病院 院長
稲松 義人	1997年 4月 1日	(社)小羊学園 理事長
加藤 成久	2015年 4月 1日	(社)神戸聖隷福祉事業団 理事
岡村 奈緒美	2021年 12月 1日	(社)聖隷福祉事業団聖隷浜松病院 総看護部長
堀口 路加	1990年 4月 1日	学校法人堀口学園 理事長、(社)愛の園福祉会 理事長

(9) 教職員の概要 (2022年5月1日現在)

聖隷クリストファー大学・大学院 教員数

(単位：人)

	専任					兼任	合計
	教授	准教授	講師 助教	助手	計		
看護学部	18	15	17	2	52	95	147
社会福祉学部	14	7	5	0	26	58	84
リハビリテーション学部	15	6	7	0	28	70	98
助産学専攻科	1	1	1	0	3	30	33
合計	48	29	30	2	109	253	362
平均年齢	52.0歳						

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	兼任	合計
介護福祉学科	3	16	4	23
平均年齢	41.0歳			

聖隷クリストファー高等学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	合計
普通科・英数科	46	43	89
平均年齢	44.5歳		

聖隷クリストファー中学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	合計
中高一貫コース・グローバルスクールコース	16	8	24
平均年齢	43.8歳		

聖隷クリストファー小学校 教員数

(単位：人)

	専任	兼任	準職	合計
小学校	21	4	3	28
平均年齢	44.9歳			

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園 教員数

(単位：人)

	専任	準職	合計
こども園	16	24	40
平均年齢	39.0歳		

※準職員は7.75hで1名換算

職員数

(単位：人)

	専任	準職	派遣	合計
法人	12	4	4	20
聖隷クリストファー大学 聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校	40	7	4	51
聖隷クリストファー中・高等学校	6	4	0	10
聖隷クリストファー小学校	4	0	1	5
クリストファーこども園	4	10	0	14
合計	66	25	9	100
平均年齢	43.2歳			

2 事業の概要

法人全体

①メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想

国際基準に合わせた医学教育（2023年以降）の改革に対応するため、メディカルスクール（医学系専門職大学院）設置構想を掲げています。

過去6年制医学部から4年制メディカルスクール（学部卒業）に移行したハーバード大学医学部、デューク大学医学部シンガポール校、オーストラリアディーキン大学・モナシユ大学、マレーシア、韓国（ソウル近郊）、フィリピンにおける医師養成状況事例を資料にまとめ検討材料の基礎としています。

②グローバルスクール設置構想

2022年4月グローバルスクール（中学校）開設にあたり国際バカロレア教育をふまえたカリキュラム、教員配置を計画し、将来グローバルスクール（中高等学校）の独立を視野に入れた学校運営、生徒募集、校舎の新築を具体化しています。既存の中・高等学校とも連携、協力体制を保ちつつ進めています。

③中長期人事政策に向けた取組み

今後将来的に納付金や補助金の増額が見込めない一方、人件費比率は毎年1%近く増加していく見通しがあり、財政的に非常に厳しい状況になっていきます。大学、中高の教員配置計画、教員年齢問題対応を含めた特任教員配置計画ならびに非常勤講師配置計画について、人件費比率を大学では63%、中高では60%、こども園では70%以下を前提とした人事政策を実施しています。そのひとつとして、大学、専門学校、中高等学校、小学校、こども園、事務職員について人事評価制度を導入し、客観的説得力のある評価と処遇反映によるやりがいのある制度の構築に向けて、評価基準の整備、処遇反映方法等の調整を行なっています。

④地域における交流と信頼関係づくり

三方原地区における聖隷グループの各施設が共通する課題について話し合い、協調を図っていくことを趣旨として三方原サミットを開催しました。各施設、団体より当年度事業計画のトピックスを報告いただき、互いの事業への理解を深める機会としました。また、災害時対応として、地震災害を想定し三方原サミット災害対策本部、三方原サミット各施設合同でトランシーバーによる情報収集訓練を行いました。今後も定期的に訓練を実施していきます。

聖隷クリストファー大学は「キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の看護、リハビリテーション、福祉及び教育・保育の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉と教育・保育に寄与することを目的とする。」と大学学則の中に謳い、地域に貢献し、国際社会においても活躍できる専門職者を育成しています。

大学の中長期事業計画に沿って2022年度は、1)建学の精神を基盤とした教育及び人材育成、2)2022年度「国際保健医療福祉プログラム」の開設、3)2023年度「国際教育学部」の開設に向けた準備、4)教育環境の補修・整備、5)大学募集・広報力の強化、6)2023年度認証評価受審に向けた準備を重点課題として取り組んできました。

2023年度は2022年度の事業計画の評価をおこない、1)建学の精神を基盤とした教育及び人材育成、2)学生募集・広報力の強化と入試制度の見直しによる入学定員の充足、3)内部質保証システムを有効に機能させた教育の質の向上、4)国際教育学部の定員増・学科増及び教育・心理学系大学院の開設に向けた将来構想の検討、5)グローバル化の発展に向けた教育・研究の推進、6)教育環境を充実させるための点検・整備計画の立案を重点課題に掲げて事業計画を立案し取り組みます。

(1) 主な教育・研究の概要

◆「卒業認定・学位授与の方針 (Diploma Policy)」 (以下「DP」)

看護学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 看護の基盤及び看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
4. 看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
6. 看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。

なお、養護教諭の教職課程のディプロマ・ポリシーについては、上記に加えて下記の通りとします。

- (1) 教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
- (2) 養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
- (3) 上記(1)と(2)を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。

社会福祉学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
3. 様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
5. 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
6. 社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
7. 社会福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。

リハビリテーション学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
3. リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
6. リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域及び国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。

国際教育学部のDP

卒業においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に対し卒業を認定し、学位を授与します。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。
2. 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
3. 様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。

4. 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
6. 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。

看護学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 看護学分野の専攻領域における研究課題に取り組み、独創的な研究テーマを設定して研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、基礎的研究を実施することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学際的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの活動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学について最新の専門知識・技能を習得し、問題解決に向け科学的で論理的な活動が企画できる。
3. 幅広い知識と視野を持ち、専門応用力を通じて、現在の学術及び臨床課題を抽出し解決する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら探索し、先行研究の調査と詳読を経て、研究テーマを設定し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・分析・考察を行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してコミュニケーションを図り、人々の健康、福祉、教育の課題解決に取りくむことができる。
7. 学際的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士前期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉分野における専門知識を習得し、福祉の人間学についての探究心を深め、論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、専門応用力を身につけ、専門性の高い活動を実践することができる。
4. 先行研究をレビューした上で、自らの研究課題を発見し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通して、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、海外の専門家や学生と交流ができる。

看護学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身につけ、看護学分野の質の高い実践、教育・研究に反映し自らの行動に反映することができる。
2. エビデンスに基づいた実践や研究を行うために、看護学分野及び関連諸科学における主要な理論・概念を深め、高度な専門知識・能力を習得し問題解決を図ることができる。
3. 看護学分野及び関連諸科学の幅広い視野をもち、俯瞰的なものの見方と専門的応用力を発揮して、新たな知を創造することができる。
4. 看護学分野の専攻領域の研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、リハビリテーション科学の研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
2. リハビリテーション科学及び近接領域について高度な専門知識・技能を習得し、探求心と論理的思考力によって自ら問題解決を図ることができる。
3. 幅広い視野と教養を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を通じて、新たな知を創造する方法を提案できる。
4. リハビリテーション科学に関する研究課題を自ら発見し、先行研究の調査と詳読を経て、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
5. 研究計画に沿って実施し、自立した研究者・専門職者として論文としてまとめ発表することができる。
6. 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧及び学問の発展に貢献することができる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルリーダーとして国内外の専門家や学生と交流ができる。

社会福祉学研究科博士後期課程のDP

修了においては、以下に掲げることに到達することを目標とし、修了に必要な所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者に対し修了を認定し、学位を授与します。

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、高い倫理観を身に付け、実践・研究・教育に反映することができる。
2. 社会福祉学分野における高度な専門知識を習得し、福祉の人間学について探究心と論理的かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる。
4. 自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
5. 自らの研究を発展させ、研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。
7. 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と学術的な研究交流ができる。

◆「教育課程編成・実施の方針（Curriculum Policy）」（以下「CP」）

看護学部のCP

看護師を志すものとして身に付けるべき態度・知識・技能を習得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 人間や環境についての基礎知識を幅広い視野から体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の成長・発達段階及び健康段階、看護の場の特性を踏まえて、対象の理解と看護に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための看護専門領域—の3領域から行うものとします。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、多様な文化や価値観・生活背景を理解する人間教育に関わる大学教育導入科目と教養基礎科目を配置する。
2. 看護の対象者の課題を科学的・論理的、総合的に理解し、個別性に応じて支援するために、人が生きる環境や身体・心理面の健康、成長・発達を理解するための専門基礎、看護専門科目を配置する。
3. 様々な立場や意見、生活背景をもつ他者を理解し、自らの考えや意見を、対象に応じて正確・適切に、伝達・説明できるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を配置する。
4. さまざまな年代の多様な状況にある人々に対して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・理論、情報、技能等を総合的に活用し、根拠に基づく基礎的な看護技術を駆使し、看護を科学的に実践できる能力を養うために看護専門科目を配置する。
5. 課題解決に向けて、主体的・かつ仲間と協働して看護専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で検討するために、看護専門科目を置く。
6. 看護者の役割と責任を自覚し、保健・医療・福祉の関係職種と協働する能力を養うために、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際的視野で物事をとらえる能力を養うために、国内外の医療、保健、看護を学習する科目や語学、海外研修や国際看護実習を経験する科目を配置する。
8. 生涯に亘り看護学・看護実践を追求しようとする意欲と信念・価値観を養うために、これまでの看護学の学修を統合し、専門職としての自覚を高め、責務を理解し自己の看護観や研究的視点を深める統合科目を配置する。

養護教諭課程では、上記の看護学部のカリキュラム編成方針に加えて、養護教諭を志す者として身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

- (1) 教職の意義や職務、教育に関する基礎的知識、児童生徒への理解・対応に必要な発達等の知識を修得するために、教職に関する科目を配置する。
- (2) 児童生徒の心身の健康課題に対応できる知識・技能を修得するために、養護に関する科目を配置する。
- (3) 学校現場において児童生徒や教職員と関わり、学校保健活動を行う実践力を養うために、教育実践に関する科目を配置する。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT など活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S (90～100 点) 到達目標を越えたレベルに達している。
 - A (80～89 点) 到達目標をほぼ達成している。
 - B (70～79 点) 到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C (60～69 点) 到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D (59 点以下) 最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

社会福祉学部のCP

社会福祉士・介護福祉士を志す者として身につけるべき態度・知識・技術を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 関連諸学の基礎知識や社会福祉士・介護福祉士の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) さまざまな対象者の有する課題を科学的、論理的、総合的に理解し支援するために必要な社会福祉・介護福祉の基本的な知識と理論、及び技術を修得するための専門領域—の3領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を深く理解し、社会福祉、介護福祉の専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるために、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を身につけ、物事を総合的に捉え的確に判断できる教養を養うために大学教育導入科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な社会福祉援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や社会福祉の各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するために専門基礎科目を置く。
3. 対象者を全人的に理解し、適切な対人関係を築くことのできるコミュニケーション力と実践力を養うためにキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。

4. 対象者を理解し、基礎的な社会福祉援助法の実践のため、各専門分野の基礎的な評価や援助技術を修得するために専門科目を置く。
5. 設定された課題や自身の疑問に対し、専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探求する態度と知識、技術を身につけるために専門科目を置く。
6. 社会福祉、介護福祉の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技術を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚及び語学力・表現力を養うために語学や海外研修及び国際福祉実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組みます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S (90~100 点) 到達目標を越えたレベルに達している。
 - A (80~89 点) 到達目標をほぼ達成している。
 - B (70~79 点) 到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C (60~69 点) 到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D (59 点以下) 最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

リハビリテーション学部のCP

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を志す者として身につけるべき態度・知識・技能を身につけるため、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と、人間理解を深めるための多様な教養科目を配置した教養基礎領域 2) 医学的基礎知識と、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の専門分野の基礎知識を体系的に修得する専門基礎領域 3) 対象者の疾患と病態、障害特性に応じた理学療法・作業療法・言語聴覚療法の実践に必要な検査・評価と治療・指導・援助に関する基本的な知識と理論、技能を修得するための専門領域—の 3 領域から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を理解し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけるため、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目及び人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く（講義）。また大学での学びの基礎を築き、知識の幅を広げ、物事を総合的に捉える的確に判断できる教養を養うため、大学教育導入科目と教養教育科目を置く。
2. 疾患や病態、心身機能の障害特性を理解し、適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法が実施できるようになるため、医学的基礎知識及び各専門分野の基礎的な知識・理論を体系的に理解し、技能を修得する専門基礎科目を置く。
3. 対象者の価値観や立場を尊重した適切な対人関係を築くため、コミュニケーション力と実践力及び自己分析能力を養うキャリア教育科目及び専門基礎科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自身の専門分野や関連諸学の学識を統合し課題を探究する態度と研究方法論を身につけるため、専門科目、研究基礎科目及び各分野の発展的専門科目を置く。
5. 対象者の疾患と病態、障害特性を適切に理解し、基礎的な理学療法・作業療法・言語聴覚療法の基礎的な検査・評価と治療・指導・援助技能を修得するため、専門科目及び臨床教育科目を置く。
6. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するため、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際感覚及び語学力・表現力を養うため語学や海外研修及び実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
 - S（90～100点）到達目標を越えたレベルに達している。
 - A（80～89点）到達目標をほぼ達成している。
 - B（70～79点）到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C（60～69点）到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D（59点以下）最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教

育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

国際教育学部のCP

教育・保育の専門職者を志すものとして身につけるべき態度・知識・技能を修得するために、1) 建学の精神に基づいた人間性の涵養をはかるための自校教育と人間理解を深めるための多様な教養基礎科目を配置した教養基礎領域 2) 教育や関連諸学の基礎知識を修得する専門基礎科目 3) 対象者の多様性を理解し、課題を探求し、実践するために必要な教育・保育及び関連諸学の知識と理論、及び技能を修得するための専門科目から編成します。具体的には以下のようにカリキュラムを編成・実施します。

1. キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動できるようになるために、建学の理念と精神の育成に関わるキリスト教関連科目・自校教育科目と教養科目を置く。
2. 対象者の多様性を理解し、適切な教育・保育の指導・援助の実践ができるようになるため、関連諸学の基礎知識や各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得するための専門基礎科目、専門科目を置く。
3. 大学での学びの基礎を築き、様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけるために、大学教育導入科目と専門科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自分の専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探求する態度と知識、技能を身につけるためにキャリア教育科目と専門科目を置く。
5. 各専門分野の基礎的な評価や指導・援助の技術を総合的に活用して、個々の子どもに合わせて援助・指導する実践力を身につけるために専門科目実習・演習・インターンシップ科目を置く。
6. 教育・保育の専門職者の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するために専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 地域及び国際社会の課題に関心を深め、国際的な視野、国際感覚を培うための語学、国際バカロレア関連科目、海外研修、国際ボランティア及び国際教育実習の科目を置く。

「教育方法」

1. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組むことができるように、学生同士が協力して課題に向き合う機会を効果的に取り入れます。
2. 主体的・能動的・協同的な学修を促すような ICT なども活用した教材開発、教育方法の改善に取り組めます。その際には、学生による授業評価、学生との授業に関する意見交換、教員相互のチェック等を積極的に活用します。
3. 学生が主体的・能動的・協同的に学修に取り組む見通しをもつことができるように、シラバスにおいて事前・事後学修の明示、授業計画の精細化を図るとともに、学部内のチェック等によってその水準を担保し、その情報を積極的に公表します。

「評価」

1. 上記で示した科目について所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。
2. 各科目の学修成果については以下の基準で評価を行います。
S (90~100点) 到達目標を越えたレベルに達している。

- A (80～89 点) 到達目標をほぼ達成している。
 - B (70～79 点) 到達目標は達成していないが、理解度は高い。
 - C (60～6 点) 到達目標の達成には努力が必要だが、最低限のレベルには達している。
 - D (59 点以下) 最低限のレベルに到達していない。
3. 卒業認定・学位授与の方針に示した教育目標を達成するために、毎年度、学生自身が自己目標を設定したうえで学修を進め、卒業認定・学位授与の方針達成度の自己評価を行い、学修成果のアセスメントを行います。卒業認定・学位授与の方針で示した教育目標を達成するために教育課程が妥当に編成されているかを毎年度検証し、必要に応じて改善していきます。

看護学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。
4. 高度実践看護コースにおいては、高度看護実践に必要な高い専門知識と高度看護実践能力を修得するための資格認定に必要な科目を置く（基盤科目・専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と関連諸学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 各専門分野の基盤となる主要な概念と理論、専門的臨床技能及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士前期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 建学の精神に基づいた高い倫理観と社会福祉学に求められる関連諸科学の幅広い知識を修得するための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉原理・援助領域に必要な各専門分野の基盤となる主要な概念と理論及び研究方法等について体系的に修得するための科目を置く（基盤科目）。
3. 各専門分野の最新の研究動向と知見を修得した上で、研究課題に取り組み、質の高い研究論文を完成させるための科目を置く（専門科目）。

看護学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、実務者として高度な知識と指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 多職種と連携する資質を磨き、倫理観、学識、幅広い知識、人間性及び指導力を身につけるための科目を置く（共通科目）。
2. 専門性を深化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

社会福祉学研究科博士後期課程のCP

教育理念・目的及び卒業認定・学位授与の方針、並びに教育目標を達成するため、次のように科目を配置します。

1. 社会福祉の高度専門職として、多職種連携ができる資質を磨き、高度な知識と指導力を身に付けるための科目を置く（共通科目）。
2. 社会福祉学の自立した研究者として、専門性を進化させ独創的研究を行い、質の高い研究を完成させることを通して新たな知を創造するための科目を置く（専門科目）。

◆「入学者受入れの方針（Admission Policy）」（以下「AP」）

看護学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

看護学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、人々がその人らしく生活できることを目指した質の高いケアを提供するために、進歩する看護専門分野及び関連諸学の知識と技能を統合し、多職種連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できる看護学分野の指導的人材として労を厭わぬ実践ができる看護専門職者を育成することを目的とします。

○求める学生像

- ・自分と同じように、他の人々を尊ぶことのできる人間性を備えた看護専門職を志す人
- ・科学的思考力を身につけ、深い教養に支えられた看護専門職をめざして学ぶ意欲のある人
- ・他の医療保健福祉分野の専門職を志す仲間と共に連携・協働して課題解決することに関心が高い人
- ・看護専門職として社会に貢献する意欲のある人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、他者による表現を理解出来る読解力と、自己の考え・感情を適切に表す表現力
- ・地理歴史・公民については多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、論理的な思考を可能とするための数学的素養
- ・理科については、看護を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、広く国際社会の人達とのコミュニケーションを実現できる能力としての英語理解と英語による表現力

○入学者選抜の基本方針

看護学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。看護学部の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、社会人選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・理解、思考力・判断力・表現力）を評価します。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ます。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を評価します。

社会福祉学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、地域の福祉と生活上の困難を抱える人々の自立を支援する高度な知識・技術と関係多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた福祉専門職の育成を目指しています。そのために地域と支援を必要とする人々を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、社会福祉の専門知識、技術を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、社会的不公正を問う人
- ・人とかかわり、多くのことを吸収し、協働を大切にすること
- ・社会福祉、介護福祉を学び、この分野でリーダーとして活躍したいという強い意志と意欲をもつ人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、論理的思考をするための基礎となる読解力、表現力・地理歴史・公民については、地域社会に働きかける専門職者として、社会福祉に関する法律・制度を理解し、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、問題解決を可能とするための論理数学的思考力
- ・理科については、専門領域を科学的に実践する能力の基礎となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力

○入学者選抜の基本方針

社会福祉学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜、3年次編入学試験を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ています。
- ・面接では、他者と適切な人間関係を築く能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見ています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見ています。

リハビリテーション学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか

リハビリテーション学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できるリハビリテーション分野の指導的人材となる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を育成することを教育目的とします。したがって、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として必要な「相手の心を理解し尊重するという基本的態度」と「高度な専門的知識及び実践的な専門技能」の二つの能力を修得し発展・向上させます。

○求める学生像

上記の人材育成を目標としていることから、次のような資質を有する学生を求めています。

- ・建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」を尊重し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として人格を磨くことのできる人
- ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の使命と役割を理解し、それを担う意志のある人
- ・教養と理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の知識と技能を身につけ成長するため、自ら学ぶ意欲のある人
- ・他の医療保健福祉分野の専門職者と多職種連携・協働して課題解決に努め、リーダーとして成長しようとする人
- ・理学療法学・作業療法学・言語聴覚学分野の発展と、地域社会及び国際社会の課題解決に貢献するため自己研鑽できる人
- ・理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の学問の発展のために国内外で学究活動に携わることを志す人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人の心身機能・構造及び活動とそれらの障害を理解し、理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の理論と技能を修得する上で、高等学校までに次のような基礎学力を有していることが望まれます。

- ・国語については、物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、言語による思考力及び伝達力
- ・地理歴史・公民については、多様な文化や歴史、価値観、生活背景をもつ他者を理解するために必要な基礎知識
- ・数学については、論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能
- ・理科については、自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

リハビリテーション学部では、学力の3要素である①「基礎的・基本的な知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性をもって他者と協働して学ぶ態度」を総合的にみる、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、グループワー

ク、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）をみます。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や課外活動の履歴から、主体性や協調性をみています。
- ・グループワークでは、他者と適切な人間関係を築く能力を評価します。
- ・面接では、目的意識、意欲、自己表現力、目標や将来のビジョンを確認しています。
- ・小論文では、総合的な読解力、発想力、論理的思考力、表現力をみています。

国際教育学部のAP

○どのような力を発展・向上させるのか。

建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を養い、人類のウェルビーイングに向けた教育のために、国際的視野を持ち、関連する機関・職種の人々と協働し、その責務を果たすことができる実践力を兼ね備えた教育・保育専門職者の育成を目指しています。そのために世界・地域や対象者を深く理解し、対人関係を築く能力を養い、教育・保育の専門知識、技能を修得することを目標としています。

○求める学生像

- ・人間が好きで、豊かな感性をもつ人
- ・人間社会に関心をもち、持続可能な社会の創造と発展に寄与する熱意のある人
- ・人とかわり、多くのことを吸収し、協働を大切に人
- ・よりよい教育・保育の実現を目指して、高い倫理観と使命感をもって主体的に学修に専念する人

○大学入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校の各教科において、本学部の目的、目標を達成するために大切な知識・態度を身につけていることが望まれます。

- ・国語については、教育・保育の専門職者として論理的思考及びコミュニケーション力を支える読解力、表現力
- ・地理歴史・公民については、教育・保育の専門職者として、多様な文化や価値観、生活背景をもつ他者を理解し、受け入れるための基礎知識
- ・数学については、教育・保育の専門職者として、問題を系統立てて考え、解決に導くための論理数学的思考力
- ・理科については、教育・保育の専門職者として必要となる自然科学についての基礎知識
- ・英語については、国際的視点で物事をとらえる能力の基礎となる語学力と「世界」に視野を広げる挑戦意欲とコミュニケーション力

○入学者選抜の基本方針

国際教育学部では、複数の受験機会と多様な入試を提供しています。本学の教育理念・目標に見合う学生を選抜するため、一般選抜の他に総合型選抜、学校推薦型選抜、奨学生選抜を実施しています。入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価します。

- ・個別学力検査、大学入学共通テストでは、高等学校において修得した基礎的な学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）を見ています。
- ・調査書は、高校時代に取り組んできた学習や活動の履歴を見ています。

- ・面接では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を見えています。
- ・小論文では、総合的な能力「読解力、発想力、論理的思考力、表現力」を見えています。

看護学研究科博士前期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の実践に必要な基本的倫理、知識、技能を備えより良い実践のため探求する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、自分の意見を述べることができる人
4. 看護の実践の中で生じた課題を解決するために、他者の意見を聞くことができる人
5. 自律的に活動し、主体性を持って課題解決に向け学修できる人

リハビリテーション科学研究科博士前期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の実践や研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. リハビリテーション科学領域の臨床実践や教育実践における課題に気づき、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践の中で生じた課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学ぼうとする意欲を持っている人

社会福祉学研究科博士前期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究心を持っている人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、社会的に問題を口頭及び文書で論理的に説明できる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決、科学的な分析、研究に意欲を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、専門職連携、多職種連携、協働の視点を持っている人

看護学研究科博士後期課程のA P

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 看護学領域の専門職の実践に必要な知識・能力を備え、看護学を探究する意欲を持っている人
3. 看護学領域の臨床実践や教育実践における課題について、研究的視点を持ち自立して研究に取り組む意欲のある人
4. 看護領域の課題解決に向けて、他の専門職や研究者と協働することができる人
5. 学術的かつ国際的に視野を広げることに関心を持ち、看護学の発展に貢献する意欲のある人

リハビリテーション科学研究科博士後期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を理解する意欲を持っている人
2. リハビリテーション科学領域の研究に必要な基本的倫理、知識、技能を備え、研究を行った経験を有している人
3. リハビリテーション科学領域の研究課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に表現することができる人
4. それぞれの実践や研究の中で生じた独創的課題の解決に意欲を持っている人
5. 自律的に活動し、主体性を持って多様な人々と協働して学び、将来共に活動する志向を持っている人

社会福祉学研究科博士後期課程のAP

1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする高い倫理観を持って実践・教育・研究を志す人
2. 社会福祉専門職の実践に必要な基本的倫理、社会福祉の思想、知識、技能を備え、研究を行った経験のある人
3. 社会福祉の高度専門職者として、臨床や教育実践における課題に気づき、その意味を判断し、口頭及び文書で論理的に説明し、社会的に問題の改善ができる人
4. 社会福祉実践の中で生じた課題の解決に意欲と科学的な分析力、研究方法を持っている人
5. 社会福祉実践の現場から学び、自立的に活動し、主体性を持って専門職連携、多職種連携を図り、協働のネットワークを構築する人

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校は、介護福祉の知識・技術・価値・理念と隣人愛の精神が統合された人間教育を行い、自分のことのように他者を考え「愛の実践」ができる介護福祉士を養成することを目的としています。

2022年度は建学の精神である「生命の尊厳と、隣人愛」の教育活動・行事等の充実した運営を行ないました。専門学校の特徴である「礼拝」や「はじめの会」、「おわりの会」を大切に学生による運営がスムーズに行えるように支援し、それらを通し自分で考え行動でき、かつ自由にしかし礼節を知る学生の涵養を目指しました。そのために教員全員が学生ひとりひとりを大切にし、質の高い教育実践を追及しました。2022年度国家試験では、6名の外国人留学生が受験し、全員合格しました。

2023年度は2名の外国人留学生が国家試験を受験します。両名が国家試験に合格できるように国家試験対策に一層注力します。

聖隷クリストファー中・高等学校

◆本校の目標

- ①建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書の言葉をもとに、真理と愛に立脚し「人のために役立つ」姿勢を持ち、明るい未来を拓き実践する人材の育成を目指す。
- ②「隣人愛を基盤とした聖隷学園一貫グローバル人材推進構想」を実現し、日本と世界に発信し、地域に信頼される学校を目指す。

生徒一人一人が、この学園での学びを通して、自分に与えられている個性や賜物(たまもの)を発見し、人生の意味を考え進路を選び、この学園で培われた価値観を土台として生きる人となるよう願っています。

普遍の価値に軸足を置き、多様に変化する現代社会に責任を持って関われる、躍動する学園であることを目指します。

聖隷クリストファー小学校

◆本校の教育理念

キリスト教精神の隣人愛を基に、日本文化を理解した上で、グローバル社会に貢献できる児童の育成を目指します。

そのために、奉仕活動や学校生活を通して、他人を思いやる心や行動力を養います。また、身の回りの現象を題材にしながら教科横断型の探究学習で、探究力、思考力、コミュニケーション力や表現力を養います。それが基礎となり、母語の日本語を重視した上での英語イマージョン教育を行うことによって、二言語習得を目指し、多様な見方や場に応じた志向・判断ができる人を育てます。

このように、隣人愛に根差し、探究学習と英語イマージョンを融合した聖隷の教育によって、未来に向かって主体的に学んでいく力や自信をもって挑戦していく姿勢が身につくよう、一人ひとりの子どもを大切に導いていきます。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園（以下クリストファーこども園）は、2011年4月に静岡県西部で初めて開園した「幼保連携型認定こども園」です。園の基本理念である「キリスト教主義を基盤に心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」の下、「愛・思いやり・たくましさ・いのち・表現力・自立」を園の目標として、主体性や意欲、他者を思いやる心など豊かな人間性を育てていくとともに、異年齢や多様な人々との関りを通して、人と関わる力が育まれることを目指しています。2021年度より、クリストファー小学校との一体的プログラムとして、国際バカロレア 初等教育（IB PYP）の導入に取組み、2022年1月に候補校として

認定されました。引き続き連携を図り、「聖隷 IB モデル」の実現と、2024 年度の認定校（IB ワールドスクール）を目指します。

◆基本理念

「キリスト教主義を基盤に、心身ともに健やかなこどもの成長を育む園」

◆基本方針

- ① 聖隷学園の建学の精神である「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」という聖書に示される愛の心をもつことを願っています。創造主（神）から一人ひとりに与えられた尊い命が守られながら、生き活きと伸びていき、それぞれの内側にある力が十分に発揮されると同時に、多様性と調和を大事にし、世界の平和に貢献しようとする姿勢を育みます。
- ② 発達や学びの連続性という視点から小学校への接続を意識し、就学前の教育・保育を一体的・総合的に展開します。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容に沿って「生きる力」の基礎を身につけていくことを目標とします。
- ③ 保護者や地域住民のために子育て支援を充実させます。皆で子どもの成長を助け喜び合えるように、子どもに関するあらゆる分野の人々が協力し、子育て環境の向上に努めます。
- ④ 聖隷クリストファー大学附属の園として、大学の教員と協力し、保育の質の向上のために、また乳幼児を取り巻くさまざまな問題の解決のための実践的研究を行います。その成果を公開・発表し、幼児教育・保育業界のモデルとなる保育プログラム作りを目指します。

◆園目標

- <愛> 神様と周りの人に愛されていることが分かり、自分を大切にする気持ちをもつ。
- <思いやり> 様々な人々との関わりを通して、思いやりの気持ちを育み共に生きる喜びを知る。
- <たくましさ> 自然の中で思いきり遊び、感性やたくましい心と体を育む。
- <いのち> 食に関わる体験を積み、いのちがつながりあい、支えられていることに感謝する。
- <表現力> 自ら様々なことに取り組み、考えたり表現する力を身につける。
- <自立> 生活に必要なことが分かり、自分から身に付けようとする。

◆保育の特色

- ① 自然の中での多様でダイナミックな体験を通して、生き活きとたくましく成長することを目指しています。
- ② 多様な文化の理解と尊重の精神を培い、より良い、より平和な世界を築くことに貢献しようとする姿勢、探究心、知識、思いやりの態度を育みます。
- ③ 大学やその他の専門機関との連携により学問的根拠に裏づけられた、質の高い幼児教育・保育を実践し、子どもの健全な育ちを目指しています。
- ④ 皆で子どもの成長を助け喜びを共有するという意識に立って、子育て支援の充実、子育て環境の向上に努めています。

(2) 中期的な計画（教務・人事・施設・財務等）及び事業計画の評価

聖隷クリストファー大学

中長期事業計画「未来創造躍進プラン」

<建学の精神> キリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」

<教育理念> 建学の精神を教育・研究・諸活動の基本理念とし、建学の精神に裏付けられた保健医療福祉・教育の専門職業人を育成することによって、人々の健康と幸福、そして地域と世界の福祉に貢献します。

<ビジョン> 保健医療福祉・教育の未来を創造する 教育・研究・実践のフロンティア大学

<キャッチコピー> 隣人愛と知の技で 共に生きる社会の実現へ 聖隷クリストファー大学

<ミッションステートメント>

- 1) 建学の精神であるキリスト教精神に基づく「生命の尊厳と隣人愛」を大学運営並びに教育・研究・実践に活かし、人々の幸福と健康、地域とアジアの保健医療福祉・教育の未来創造に貢献する。
- 2) 保健医療福祉・教育の総合大学としての学際性を活かした独創的教育を提供し、建学の精神に裏付けられた豊かな人間性と倫理観、教養と専門的知識・技能を兼ね備え、一人ひとりのために労を厭わぬ専門職を育成する。
- 3) 大学院博士前・後期課程をもつ大学として、卓越した研究成果と知を創造し、保健医療福祉・教育の発展に貢献する高度専門職者並びに研究・教育者を輩出する。
- 4) 社会に開かれた大学として、地域社会における保健医療福祉・教育に関する教育・研究・実践の拠点を形成し、共生社会の実現への使命を果たす。
- 5) 国際的な保健医療福祉・教育の課題解決に向けて、本学の人的・知的・技術的・教育環境の資源（聖隷ブランド）を活かした国際支援及び人材育成により国際貢献に資する。
- 6) 時代を先見し、自律的な自己点検評価と大学改革の実行により、保健医療福祉・教育のモデル大学として学界・教育界をリードする。
- 7) 教職員一人ひとりが個人として尊重され自律性が認められるとともに、自己成長と協働により大学（聖隷学園）の新たな価値創造と発展に努める。

<長期目標（10年後）>

- 【教育】建学の精神と教育理念のもと、聖隷ブランドを活かした先進的かつ独創的な教育環境と教育課程及び教育方法による「聖隷教育モデル」を創出する。
- 【研究】保健医療福祉・教育分野の独創的かつ学際的な研究を推進するとともに、国内及びアジアの中核となる研究・教育拠点を形成し、新たな学問体系を創造する。
- 【学生支援】隣人愛の精神を涵養し、主体的に豊かな学生生活を送ることができる「愛と活気あるグローバルキャンパス」をつくり、愛校心と帰属意識を醸成する。
- 【就職・キャリア支援】保健医療福祉・教育の動向と展望に基づいた病院施設等との連携体制の再整備と、卒業生・同窓会との強固なパートナーシップに基づく相互支援体制を構築する。
- 【地域連携】地域の保健医療福祉・教育の基幹大学として、地域の保健医療福祉の発展に向けた大学-地域連携による教育・研究・実践の地域モデルを構築する。
- 【国際化】国際的に競争力ある大学を目指して、積極的に国際交流・支援及び人材育成を展開し、アジアの保健医療福祉・教育の教育・研究・実践のハブ（Hub）大学に発展する。
- 【学生募集】情報と企画に基づく戦略的広報活動と、高大連携及び幼小中高大・卒業生循環型の募集活動等により、募集定員を堅持するとともに、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づいた人材を受け入れる。
- 【基盤整備】質の高い教育・研究を支える人事・組織・施設設備の充実を図るとともに、内部質保証システムに基づいた自律的な自己点検・評価を実施し、大学運営及び教育研究の質の向上を促す。また、建学の精神と教育理念を遵守・維持し継続的発展を担う幹部教職員を育成する。

<中期・短期計画一覧>

最重点課題

- (1) 建学の精神を基盤とした教育及び人材育成
- (2) 学生募集・広報力の強化と入試制度の見直しによる入学定員の充足
- (3) 内部質保証システムを有効に機能させた教育の質の向上
- (4) 国際教育学部の定員増・学科増及び教育・心理学系大学院の開設に向けた将来構想の検討
- (5) グローバル化の発展に向けた教育・研究の推進
- (6) 教育環境を充実させるための点検・整備計画の立案

学部	中期目標 (2024～2026 年度)	中期目標：客観指標 (2024～2026 年度)
看護学部	<p>①学部・専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③社会の看護師養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部・専攻科－大学院 (CNS・NP を含む) －特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。</p>	<p>○実質倍率 (一般選抜前期受験者数：合格者数)：1.8 以上</p> <p>○偏差値：47.5 以上</p> <p>○標準修業年限卒業率：95%以上</p> <p>○国家試験の合格率：全国大学平均値以上</p> <p>○卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：70 p 以上</p> <p>○就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：80 p 以上</p> <p>○父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：95%以上</p>
	中期計画 (2024～2026 年度)	短期計画 (2022～2023 年度)
	<p>○「新教育課程」の実施及び看護実践力を高めるための教育方略として創出した 2 ブロック制による講義・演習・実習を実施し、形成評価を着実にを行い、2025 年度末に 4 年間の評価に基づく課題と改善点を明らかにする。</p> <p>○アクティブラーニングを活性化するための教育方法を創出し、独創的な教育を発展させる。</p> <p>○学部・専攻科－大学院 (CNS・NP を含む) －特定行為研修が有機的に機能する組織・教育体制を構築する (領域統合・再編、教員配置、専攻科の将来構想の策定を含む)</p>	<p>○学部・専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた新教育課程の実施と形成評価</p> <p>・2 ブロック制 (治療療養支援看護群・発達支援看護群) の各群での領域を超えた講義・演習の構成、及び領域間の連携科目による教育の実施</p> <p>・ICT 活用による教育の質向上のための教育力向上、シミュレーション教育の充実、教材開発、臨床・他大学との協働</p> <p>○教員充足と人材育成</p> <p>○特定行為研修の充実</p> <p>○新カリキュラム推進のための CBT・OSCE による評価試験の推進</p> <p>○看護教育充実のための教育環境の整備と充実</p> <p>○保健師教育の充実と社会の要請に応える人材輩出</p>

学部	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
	<p>①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。</p> <p>④社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。</p>	<p>○実質倍率（一般選抜前期受験者数：合格者数）：1.2以上</p> <p>○偏差値：42.5以上</p> <p>○標準修業年限卒業率：95%以上</p> <p>○国家試験の合格率：全国大学平均値以上</p> <p>○介護福祉士取得希望者：20名</p> <p>○社会福祉士取得希望者：45名</p> <p>○精神保健福祉士取得希望者：25名</p> <p>○公認心理師取得希望者：15名</p> <p>○卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60p以上</p> <p>○就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：60p以上</p> <p>○父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：95%以上</p>
社会福祉学部	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<p>○入学定員の充足</p> <p>○教員体制と教育環境の充実 公認心理師養成課程担当教員の適切な配置</p> <p>○介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の人材育成と輩出</p> <p>○「子ども家庭ソーシャルワーカー」（仮称）養成に向けての情報収集、必要に応じての準備</p>	<p>○入学定員の充足</p> <p>・公認心理師養成課程（「福祉心理コース」）新設について周知をはかる</p> <p>○公認心理師養成課程開設に向けての準備と円滑な運営</p> <p>・教育課程表を整える</p> <p>・公認心理師養成課程教員について、2023年度から完成年度に向けての配置計画を策定する</p> <p>○福祉心理コース（公認心理師・認定心理士養成課程）の円滑な運営</p> <p>○介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士の人材育成と輩出</p> <p>・介護福祉コース希望者をコンスタントに獲得する</p> <p>・国家試験対策の拡充をはかる</p> <p>○「子ども家庭ソーシャルワーカー」（仮称）資格化の動向に関する情報収集</p> <p>○聖隷クリストファー介護福祉専門学校との質の高い介護人材養成に向けた連携・協働</p> <p>○こども教育福祉学科の小学校教員採用実績の向上</p> <p>○小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援</p>

学部	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
リハビリテーション学部	<p>①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。</p> <p>②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。</p> <p>③国際リハビリテーションコース（2024 年度終了）および国際保健医療福祉プログラム（2022 年度開始）の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。</p> <p>④地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。</p>	<p>○志願者実人数（一般選抜前期）：PT160 名、OT120 名、ST90 名</p> <p>○偏差値：PT47.5、OT42.5、ST40 以上</p> <p>○標準修業年限卒業率：95%以上</p> <p>○国家試験の合格率：全国大学平均値以上</p> <p>○国際コース・プログラム履修者：6 名</p> <p>○国際的活動に関連する進路選択：2 名（進路）国際支援に関連する団体施設等への就職、大学院、留学など</p> <p>○「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」を 2025 年度に開設する。</p> <p>○卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：PT 学科・OT 学科 60 p 以上／ST 学科 50 p 以上</p> <p>○就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：PT 学科・OT 学科 60 p 以上、ST 学科 50 p 以上</p> <p>○父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：90%以上</p>
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
	<p>○国際リハビリテーションコースの修了（2024 年度）と国際保健医療福祉プログラムへの移行と発展</p> <p>○3 学科の特色を活かした着実な広報活動</p> <p>○企業との連携体制の維持および強化（産学連携による教育・実践モデルの構築）</p> <p>○「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」の開設に向けての体制整備</p> <p>※2024 年度リハビリテーション学部 20 周年記念事業として位置づける。</p>	<p>○国際リハビリテーションコース（2024 年度修了）および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開（大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供）</p> <p>○定員充足のための着実な広報活動</p> <p>○各学科の教育特長を反映した学生募集戦略の検討と実施</p> <p>○入試制度（併設校推薦・指定校推薦・総合型選抜）の見直しと実施</p> <p>○企業との連携体制の形成および強化（連携モデルの構築）</p> <p>○リハビリテーション学部の 3 学科の特色を活かし、地域高齢者、発達障害（言語発達含む）を持つ方をサポートする実践教育センターの検討</p> <p>○学部学科の教育特長の明確化</p>

学部	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
国際教育学部	<ul style="list-style-type: none"> ①学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。 ②学位授与方針に基づいて適正な成績評価を行い、教育の質を保証し、社会に貢献する専門職を輩出する。 ③社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教諭・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。 ④将来の教育と心理分野の人材養成に適う国際教育学部大学院の将来構想を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定員充足 ○偏差値：42.5以上 ○標準修業年限卒業率：95%以上 ○採用試験の合格率：浜松市・静岡県内大学平均値以上 ○小学校教諭養成：15名 ○認定心理士：10名 ○発達支援士（仮称：本学認定資格）：25名 ○卒業生満足度「卒業前に：この大学で学べたことは有意義であった」：60p以上 ○就職満足度「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：60p以上 ○父母等保証人満足度「本学に進学させてよかったか」：90%以上
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○入学定員の充足 ○教員体制と教育環境の充実 ○社会の要請に応え得る質と数の小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員・特別支援学校教諭・認定心理士（公認心理師）の人材育成と輩出 ○「国際教育学部」設置後の教育課程や教育環境等の整備 ○クリストファーこども園・小学校との国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働体制の構築 ○「国際バカロレア教員養成プログラム」の5年（2025年度）経過後の審査の準備 ○教職センターの整備・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「国際教育学部」設置に向けて準備を整え、初年度、円滑に運営する ○入学定員の充足 ○入学定員の充足のための入試制度の見直しと学生募集の工夫・強化 ○教員体制と教育環境の充実 ○小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援 ○クリストファーこども園・小学校との国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働体制の検討 ○「国際バカロレア教員養成プログラム」の現職教員向けプログラムの開始 ○教職センターの設置 ○3つの系（教育・保育・心理）の特長の明確化と特長ある教育の実践 ○学部の将来構想実現に向けた検討と構想を見据えた人事計画の策定

研究科	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
大学院共通	<ul style="list-style-type: none"> ①保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。 ②研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉の新たな知の創造を目指す。 ③アジアを中心としたグローバルな保健医療福祉の研究・教育拠点を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前期・後期大学院生の定員充足 ○学部卒業生からの進学者数：10%以上 ○各研究科留学生：1名以上 ○国際コンファレンスの定例開催
看護学研究科	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○保健医療福祉分野のイノベーションをリードするための高度な専門職者、教育者の輩出 ○地域の専門職者及び学問分野に寄与するとともに、領域を超えた研究活動の推進 ○学内循環型の人材育成の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学部・学科・研究科の教育特徴の創出 ○地域の専門職者及び学問分野に寄与する、研究活動発展のための研究プロジェクトの構築 ○学部・学科・研究科の連動企画の立案と実践 ○高度実践看護職育成のためのNP（Nurse Practitioner（ナース・プラクティショナー））教育課程の開設準備 ○教育研究指導強化のための教員組織（領域編成）の再編の検討
リハビリテーション科学研究科	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○前期・後期の定員充足 ○国際共同研究・国際共同教育の実践 ○研究成果の公表方法の確立（出版会等） ○研究計画・学位審査方法の確定 	<ul style="list-style-type: none"> ○学内推薦入試（前期・後期）の実施 ○国際共同研究・国際共同教育の実践 ○研究成果の公表方法の検討・確立（出版会等） ○研究計画・学位審査方法の検討 ○院生募集強化策の立案と実践 ○入学定員の充足に向けた活動の充実（臨床施設との連携強化、専門セミナーの開催、大学院生の研究費応募支援など） ○論文投稿による学位審査（博士後期課程）プロセスの検討
社会福祉学研究科	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○博士前期課程の定員充足（「1教員1院生」を目標とする） ○院生の研究指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の社会福祉関係者向けの講座やシンポジウム、研修等の機会を活用し、さらに、キャリア支援センターと連携して大学院のPRを進めていく。 ○研究指導のための教員間連携体制を強化するとともに、学部と連携して計画的な大学院教員人事を図る。 ○博士前期課程の入学定員の充足 ○公認心理師コースを設置するための準備

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
教育	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。 ②学位授与方針に適した保健医療福祉の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。 ③国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生及び教員の英語教育と国際交流・活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域実践アクティブラーニング、国際支援アクティブラーニングの実践活動と参加学生の推移 ○レポート評価・演習・実習科目におけるルーブリック活用：全科目実施 ○DP到達評価、社会人基礎力評価の実施（学生－教員－教学改革） ○学生の国際研修、国際支援アクティブラーニングの参加推移 ○ティーチング・ポートフォリオの全科目実施
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証（学問分野別の質保証）の体制の構築 ○データがたまる、つながる仕組みの構築、学習の理解度、習熟度向上につながる教材、コース設計 ○地域実践アクティブラーニング、国際支援アクティブラーニングの発展的展開 ○国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の点検・評価と改善（2025年度完成） ○ティーチング・ポートフォリオの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証（学問分野別の質保証）の体制の構築 ○ICT活用やeポートフォリオ等の学修ツールの活用定着 ○地域実践アクティブラーニング、国際支援アクティブラーニングの発展的展開 ○国際保健医療福祉プログラム（副専攻）の確実な運営（2022年4月開始） ○全学教職課程委員会の整備 ○ディプロマサプリメントの発行 ○ティーチング・ポートフォリオの実施

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ①隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。 ②学修につまずきのある学生に対する全学的な支援体制を整備する。 ③健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事件・事故の発生件数：前年度以下 ○満足度調査（他学部の学生と交流できた／サークル等を通じて他学部の学生との交流がある）の満足度指数を改善する。
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の支援体制（健康管理・学修支援・経済支援）の充実 ○建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働 ○学部を超えた学生交流の機会創出 	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の支援体制（健康管理・学修支援・経済支援）の充実 ○建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働 ○学部を超えた学生交流の機会創出 ○国際人育成のためのグローバルキャンパス

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
F D	①学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	○学部 FD 研修会、全学 FD/SD 修会：参加率 100% ○授業評価の実施：100% ○ピアレビューの実施：100% ○学生評価指標：2022 年度内に検討する。
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
	○教職－学生共同による全学・学部 FD 活動の強化（FD サロンなどの充実・広報活動への参加協力・他大との学生 FD 交流など） ○学生の動機付けモデルに基づいた授業評価による授業改善・向上の強化（学部/全学 FD 研修の充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など） ○学生 FD スタッフの全学的な組織化、並びに教育改善活動への参画体制の強化	○ピアレビューや授業評価による授業改善・向上のさらなる推進（FD 研修と FD サロンの充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など） ○学生 FD スタッフの全学的な組織化と教育改善活動への主体的な学生参加の促進（他大との学生 FD 交流を含む）

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
就職・キャリア支援	①在学生・卒業生の多様で豊かなキャリアを支援する。 ②病院施設等と保健医療福祉・教育の最新動向や方針を共有し、長期スパンで相互に助け合い、高め合う協力体制を目指す。 ③卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらおう。	○就職率 100%（就職希望者に占める割合） ○卒業生満足度調査項目「進路について：希望する進路先に就職、または進学することができた」：満足度指数 65 以上 ○病院施設への訪問：年間 20 か所以上 ○病院施設説明会参加数：各学部 20 施設以上 ○ホームカミングデーの参加者数：前年度比増
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
	○病院施設等との懇談会、訪問、アンケート調査を通し、積極的に情報発信および情報収集を行い、それを学内へ還元する。 ○広報誌・同窓会報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。	○国際教育学部設置に伴う教職センターの開設および体制の確立 ○保健医療福祉・教育や最新の動向を踏まえたキャリア支援を行う。

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
国際化	①グローバル化を発展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を発展させる。 ②留学生の受け入れのための基盤整備を充実させる。（経済支援、学内組織、教育体制、教員の英語力強化の取り組み）	◇留学生受け入れ：5人、短期100人 ◇学生の海外派遣：短期100人／年 ◇海外大学との交流協定校締結：10件 ○国際支援アクティブラーニングの事業と参加学生の定着：20%以上
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	○グローバル化の発展に向けた教育環境の整備 ○優秀な外国人留学生受け入れ	○グローバル化の発展に向けた教育環境の整備 ○優秀な外国人留学生受け入れ

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
研究	①研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉・教育の学術の発展に寄与する。	○科研申請率：80% ○科研採択率：30% ○年間1教員1学会発表（公演等含）・1論文発表（書籍等含） ◇受託研究、共同研究の件数：10件／年
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	○科研費等学外研究費獲得の推進 ○産学連携事業・研究の推進	○科研費等学外研究費獲得の推進 ○産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
地域連携	①地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	○浜松市ウエルネス推進協議会参画団体との共同事業実施：3件／年 ○浜松市と大学との連携事業～大学生による講座：6講座／年 ○地域連携事業費の応募件数：10件／年 ◇オープンカレッジ（公開講座・シンポジウム）の実施件数：15件／年
	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	○保健医療福祉・教育分野で浜松市との連携の継続 ○地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築	○保健医療福祉・教育分野で浜松市との連携の継続 ○地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
	<p>①アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。</p> <p>②こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。</p> <p>③保健医療福祉及び教育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。</p> <p>④高大接続改革、学習指導要領の改訂に対応した入試制度となっているか、毎年実施する追跡調査も参考に見直しを継続する。</p>	<p>○定員充足率：100%</p> <p>○河合塾入試難易度 看護・理学 47.5、作業 42.5、言語 40.0、社会福祉 40.0、国際教育 40.0</p> <p>○メディア掲載数：20件/年間</p> <p>○併設高校進学者割合：20%</p> <p>◇オープンキャンパス来場者数：1,600人/年</p>
学生募集	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<p>○定員確保に向けた積極的な募集広報活動</p> <p>○学園内、卒業生循環型の募集体制の確立</p> <p>○情報収集と企画に基づく戦略的な募集広報活動の展開</p> <p>○継続的な入試制度の点検、見直し</p>	<p>◇定員確保</p> <p>○募集広報活動の見直しと取り組み</p> <p>○こども園から大学・大学院、卒業生循環型の学生募集体制の確立</p> <p>○高大連携校との強固な関係構築</p> <p>◇入試改革</p> <p>○2025年度新課程入試への対応</p> <p>○学校推薦型選抜の評価と見直し</p>

分類	中期目標（2024～2026年度）	中期目標：客観指標（2024～2026年度）
	<p>①社会の技術革新に適う人材育成に向けた、ICT等の教育ツールの活用と教育・学生支援を充実する。</p>	<p>○全学LANの10Gbps対応、教育研究基盤保証型、高信頼性の確保およびクラウド移行</p>
ICT	中期計画（2024～2026年度）	短期計画（2022～2023年度）
	<p>○パソコン必携を前提とした双方向型の授業展開、成果物や思考過程の可視化を推進</p> <p>○学術情報ネットワークを活用した、高速、大容量、他大学連携に対応した教育研究基盤整備</p>	<p>○授業、演習での必携パソコンの全面的な活用</p> <p>○5年後、10年後を見通したICT計画の策定</p>

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (1) 組織運営	①社会の情勢変化や保健医療福祉分野へのニーズに対応し、また大学ブランド力を発展させるため、学部・研究科の体制を有効・効果的かつ柔軟に編成・整備する。 ②大学の継続的発展のため、卒業生の中から本学の将来を担う優秀な人材を育成して、本学の歴史と教育理念を継承する。 ③教育研究並びに諸活動の質の向上を促すため、公正かつ適切な教員評価を実施する。 ④次世代を担う幹部教職員を育成し、活力あるイノベーティブな教職員組織を形成する。 ⑤業務の効率化・合理化とコスト管理を行い、資源の有効活用を促す。	○人件費比率 65%未満 ○教員一人あたりの学生配置数：13 人未満 ○教員年齢分布：40 未満 1/6、41～50 歳 2/6、51～60 歳 2/6、61 歳以上 1/6 ○卒業生・大学院修了生の教員配置：1/3 ○本学卒業生を教員として積極的に採用し、専任教員に占める本学卒業生の割合：50% ○幹部教職員の育成
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
○教員配置計画に対する教員の充足 ○教員配置、非常勤講師、準教員の適正配置 ○卒業生の教員採用	○教員配置、非常勤講師、準教員の適正配置 ○教員評価制度の評価方法の見直し ◇教職員の働き方改革 ○組織運営・資源（人・金・物・時間）活用の見直し ○働き方改革関連法施行に伴う教員の働き方改革の推進と教員活動記録の様式の改善見直し	

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
	<p>①快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。</p> <p>②教育研究環境の充実を図るため、各種補助金を獲得及び教育発展基金を開設する。</p>	<p>○教育改革推進経費（学長裁量経費）の見直し（教育研究経費の5%以上）</p> <p>○「私立大学等改革総合支援事業」（タイプ3「プラットフォーム形成」）の採択</p> <p>○他大学との教養教育共同化及び単位互換</p> <p>○教育発展基金：開設</p>
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
<p>基盤整備 (2) 教育研究環境の整備</p>	<p>◇プラットフォームふじのくに地域・大学コンソーシアムにおける活動計画の実施【①県内の経済4団体と県内大学生との意見交換会（年2回）、②県内の経済4団体とプラットフォームとの意見交換会（年1回）、③社会人のキャリア形成を目的とした共同プログラムの策定（1件）、④県内の高等教育機関の共同学生募集活動（年3回）、⑤県内の高等教育機関のBCP策定】</p> <p>○校舎・教室等の保全と改修・修繕</p> <p>○教育発展基金の開設（制度・受け入れ窓口の開設）</p> <p>○ICT環境の高度化、情報システムの統合・集約（認証方法の統一、情報の一元化）</p>	<p>○教育発展基金の開設（制度・受け入れ窓口の開設）</p> <p>○ICT環境の高度化、情報システムの統合・集約（認証方法の統一、情報の一元化）</p> <p>○「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」（プラットフォーム形成推進委員会）の継続的な参画</p> <p>○校舎・教室等の保全と改修・修繕</p>

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
	<p>①内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。</p>	<p>○IR有効活用等による教学マネジメントの体制構築と適切な運用（PDCAサイクル）</p> <p>○認証評価受審適合判定（2023）</p>
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
<p>基盤整備 (3) 内部質保証及び情報公開</p>	<p>○認証評価受審後の改善事項の対応</p>	<p>○認証評価受審の準備（2022）と受審（2023）</p> <p>○教学IR委員会と自己点検・評価運営委員会との連携による教育改善</p>

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (4)安全管理	①安心・安全な教育研究環境を提供するため、学内・職場の安全・衛生管理の推進、及び情報セキュリティの基本方針に沿った情報管理に努める。	○コンプライアンス案件：0 ○ハラスメント案件：0 ○教職員のストレスマネジメント：偏差値 50 ○「本学がハラスメントの報告や相談を安心してできる職場であるか」という主旨の質問項目を設け、実情を把握する。
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
	○リスクマネジメントの強化 ○ハラスメントのない大学環境を創出する。 ○BCP（Business Continuity Plan、緊急事態時の被害を最小限に抑え、事業が継続できるように対策や方法をまとめた計画）対策、データバックアップ、障害早期復旧体制の強化	○リスクマネジメントの強化 ○ハラスメントのない大学環境を創出する。 ○ハラスメント対応を専門とする職員の配置の可能性について検討する。

分類	中期目標（2024～2026 年度）	中期目標：客観指標（2024～2026 年度）
基盤整備 (5)その他	①学園の将来構想（グローバルスクール：国際教育学部、メディカルスクールの設置）に向けた大学改革を実行する。	○大学の将来構想の設計
	中期計画（2024～2026 年度）	短期計画（2022～2023 年度）
	○国際教育学部の学科増または定員増および教育・心理学研究科の設置（2029 年 4 月）の準備をする。 ○2026 年度内に中長期事業計画を見直す。	○2023 年 4 月「国際教育学部」の開設準備 ○国際教育学部の将来構想検討委員会（仮）の設置と進め方の検討

聖隷クリストファー大学 2022 年度事業計画 評価

◎：目標を達成した ○：おおむね目標を達成した △：行動計画は実施したが目標を達成できなかった
▲：行動計画が未実施で目標を達成できなかった

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
看護学部	看護学部の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	「新教育課程」の実施及び看護実践力を高めるための教育方略として創出した2ブロック制による講義・演習・実習を実施し、形成評価を着実にを行い、2025年度末に4年間の評価に基づく課題と改善点を明らかにする。	1-① 看護学部の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた新教育課程の円滑な実施と形成評価を行う。	○
			1-② ICT活用による教育の質向上のための教育力向上、シミュレーション教育の充実、教材開発、臨床・他大学との協働を行う。	○
	社会の看護師養成の政策動向を的確に判断し、それに適う学部・専攻科－大学院（CNS・NPを含む）－特定行為研修が有機的に機能する組織体制を構築し、人材養成のための教育を行う。	教員充足と人材育成 特定行為研修の充実	2-① 社会のニーズに即した人材育成を効果的に行うための人員配置案を策定する	△
			2-② 看護学研究科と連動し、学部の大学院進学の情報活動を検討する。	○
助産学専攻科	専攻科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	専攻科の教育特徴・資源を活かし社会のニーズを捉えた教育課程の実践と評価体制を構築する。	2-③ 高齢化社会における在宅療養のニーズに応じ、かつ高度実践看護に求められる特定行為研修の内容とする。	○
			1-① 新カリキュラムの教育目標である、予測性を含めた助産診断と実践力「助産診断・技術学」「ハイリスクケア論」を含む（10単位）と「地域母子保健」（2単位）の講義・演習・実習の評価が平均80点以上とする。	○
社会福祉学部	社会の要請に応え得る質と数の介護福祉士・社会福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。	介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士の人材育成と輩出 公認心理師養成課程開設に向けての準備と円滑な運営	1-① 介護福祉士への関心拡大に向けた取り組みを行い、入学時コース希望者を15名獲得する。	◎
			1-② 2023年度「公認心理師」養成課程開設に向けた準備を整える。	◎
こども教育福祉学部	社会の要請に応え得る質と数の小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員・特別支援学校教諭の人材育成と輩出する。	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士および国際バカロレア教員の人材育成と輩出、並びに特別支援学校教諭の人材育成と輩出の支援	2-① 小学校教員採用試験合格50%を目指し、対策講座を強化する。(4～8月)	◎
			2-② 教職センターを設置し、学内外の各部署・関係機関と連携して運用を開始する。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
リハビリテーション学部	国際リハビリテーションコース（2024年度終了）および国際保健医療福祉プログラム（2022年度開始）の着実な実施により、国際的活躍を指向するリハビリテーション専門職者と教員の養成を推進する。	国際リハビリテーションコース（2024年度修了）および国際保健医療福祉プログラムの着実な展開（大学院との接続による卒業生の発展的な進路提供）	1-① 国際リハビリテーションコースの4年目のプログラムを適切に運用する。	◎
	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	企業との連携体制の形成および強化（連携モデルの構築）	2-① 企業との連携体制を維持するために必要な学内整備を実施し、連携企業との関係性を強化する。	△
	地域包括ケアシステムを視野に入れ、地域に貢献する学部として、臨床・研究・教育実践モデルを構築する。	「地域リハビリテーション実践教育センター（仮称）」の開設に向けての体制整備	3-① リハビリテーション学部の3学科の特色を見極め、実践教育センター設置に必要な課題と整備すべき事項を明確化する。	◎
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学を受け入れる。 こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する	募集広報活動の見直しと取り組み こども園から大学・大学院、卒業生循環型の学生募集体制の確立	4-① 過去3年間の平均志願者数（実人数）を上回る志願者を得る（5%以上）。 4-② 公開講座および商業施設でのイベントを実施し、より広い地域での学部および専門職の認知を広げる。	△ ◎
国際教育学部設置準備委員会	学部・学科の教育特徴・資源を活かした教育課程及び教育方法を創出し、卓越した独創的な教育を発展させる。	「国際教育学部」設置に向けて準備を整え、初年度、円滑に運営する	1-① 国際教育学部設置に向けた体制や業務を整理・検討する履修モデルごとの3つのユニット会議（こども・国際・心理）を設ける	◎
	社会の要請に応え得る質と数の幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・国際バカロレア教員・特別支援学校教員・認定心理士（公認心理師）を養成し輩出する。	クリストファーこども園・小学校との国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働体制の検討	1-② クリストファーこども園・小学校と国際バカロレア教育に関する日常的な実践研究・情報交換など連携・協働して園内・校内研修や研究会を開催する。（春秋セメで各1回）	○

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
看護学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	学部・学科・研究科の教育特徴の創出	1-① NP（プライマリケア）教育課程の申請及びDNP教育体制の検討	○
			1-② 指導教員を強化した新領域による複数教育体制の構築	△
			1-③ 研究科構成員はじめ、学部教員の研究力の発展させるための、研究プロジェクトの発足	△
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉の新たな知の創造を目指す。	学内循環型の人材育成の推進	2-① 卒業生、学部生への広報活動の強化と見直し、定員充足を図る	○
		2-② 研究科、学部との連動企画の立案	△	
リハビリテーション科学研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	学内推薦入試（前期・後期）の実施	1-① 学内推薦入試制度を活用した、受験生を前期1名、後期1名得る	△
			1-② 論文投稿による学位審査方法を決定する	◎
	アジアを中心としたグローバルな保健医療福祉の研究・教育拠点を形成する。	国際共同研究・国際共同教育の実践	2-① 国際共同研究又は国際共同教育の1つ実践する	○
			2-② 国際共同研究又は国際共同教育成果又は途中経過をSIRC2023で発表する	○
	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉の新たな知の創造を目指す。	研究成果の公表方法の検討・確立（出版会等）	3-① 研究法副読本を用いて、大学院公開講座を開催する	◎
保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門的知識と技能を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	前期・後期の定員充足	4-① 志願者減少の要因分析をし、対策案を立案する	○	
		4-② 分野毎又は共同で、公開講座や研究紹介を実施する	◎	

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
社会福祉学 研究科	保健医療福祉分野のイノベーションをリードするため、高度な専門職的知識と技術を有し社会の指導的立場に立つ高度専門職者及び分野の発展に寄与する創造性豊かな研究者・教育者を育成する。	浜松市の福祉保健活動の推進に貢献する。同時に、大学院の定員充足を視野に入れ、地域の社会福祉関係者向けの講座やシンポジウム、研修等の機会を活用する。さらに、入試広報センター、キャリア支援センターと連携して大学院のPRを進めていく。	1-① 卒業生、現場の社会福祉専門職、関係機関と連携の機会と場づくりに努める。浜松市の福祉保健活動の充実とともに、推進拠点の一つとして本学が認識されている。	◎
		研究指導のための教員間連携体制を強化するとともに、学部と連携して計画的な大学院教員人事を図る。	1-② 保健医療福祉関係団体の活動にコミットしながら、多様な社会福祉専門職・機関と関係を築くことが大学院のPRに結びつき、大学院の定員充足に結びついている。(博士前期課程の定員充足率 50%以上を安定的に維持している)	△
			1-③ 研究科運営体制が整い、複数教員による指導および審査が円滑かつ効果的に実施できている。	◎
教務	学位授与方針に適した保健医療福祉の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。	ティーチング・ポートフォリオの実施	1-① WebClass でのティーチング・ポートフォリオの実施に向けた準備をする。2022 年度に試行する。	◎
	学位授与方針に適した保健医療福祉の専門職を輩出するため、適正な成績評価を実施する。	アセスメントポリシーに基づく教育成果の可視化による教育と人材養成の質保証(学問分野別の質保証)の体制の構築	2-① 2023 年度シラバスにおけるレポート評価・演習・実習科目(専任教員)のルーブリック活用(各学部目標の達成)	◎
			2-② 教学マネジメントに基づく公表・共有情報を整理し、情報をまとめる。	○
		2-③ 教育課程の点検・評価に関するサイクルを整理し、明確化する。	○	
国際保健医療福祉 プログラム	国際社会に貢献できる人材を育成するため、学生及び教員の英語教育と国際交流・活動を推進する。	国際保健医療福祉プログラム(副専攻)の確実な運営(2022年4月開始)	1-① 学生が国際保健医療福祉プログラム(副専攻)を選択できるよう説明を行う。	◎
			1-② 国際保健医療福祉プログラムを確実に運営する。	◎
学生支援	健やかで豊かな学生生活を実現するため、学生の心身の健康や生活及び経済的な支援を充実する。	学生の支援体制(健康管理・学修支援・経済支援)の充実	1-① 学生に対し感染症についての正しい知識を提供する。	△
			1-② 簡易スクリーニング調査により精神的な問題を抱える 2~4 年の学生を早期に把握し、適切に支援する。	◎
			1-③ 学生相互の支え合いなど新しい支援方法について検討、実施する。	◎
		学部を超えた学生交流の機会創出	1-④ 学部を超えた学生交流の機会となる行事への参加者数を増やす。	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
FD	学生支援並びに教育に向けた教職員の資質向上を目指し、各種研修会の充実と教職員・学生の連携を促す。	ピアレビューや授業評価による授業改善・向上のさらなる推進 (FD研修とFDサロンの充実・学生の動機付けモデルに基づいた授業評価の検討と策定など)	1-① 到達目標 (学生の授業評価) に関する全学 FD 研修会と学部 FD サロンを開催する。 数値目標: 教員の 100%FD 研修会参加・25%FD サロン参加	○
			1-② ピアレビュー100%実施を目指した体制や方法を充実させる。 数値目標: ピアレビュー100%実施	○
		学生 FD スタッフの全学的な組織化と教育改善活動への主体的な学生参加の促進 (他大との学生 FD 交流を含む)	1-③ 学生主体の全学的な学生 FD スタッフ活動を進める体制を構築し、定例会を開催する。 数値目標: 各セメ 1 回以上開催	○
就職・キャリア支援	在学生・卒業生の多様で豊かなキャリアを支援する。	国際教育学部設置に伴う教職センターの開設および体制の確立	1-① 小学校教諭課程完成年度及び国際教育学部設置に伴うキャリア支援体制の構築	◎
		保健医療福祉・教育や最新の動向を踏まえたキャリア支援を行う。	1-② with コロナ時代に即した新たな就職支援方法の整備 1-③ GAKUEN リニューアルを契機とした業務改善	◎ ○
	卒業生の母校への絆を育成するため、本学を卒業したことの魅力を再認識してもらう。	広報誌・同窓会報・ホームページ等を通して、卒業生目線を持ち、聖隷の魅力を伝える。	2-① 卒業生のキャリアアップへの意識向上 (インタビュー記事: 6 件)	◎
教育推進 グローバル	グローバル化を発展させるため、本学の資源を活用して、アジアを中心とした国及び地域・機関等と共同事業や人材育成を発展させる。	グローバル化の発展に向けた教育環境の整備	1-① コロナ禍において交流協定校と交流活動を継続して行う。	◎
研究推進・研究倫理	研究活動を発展させ、その成果を国内外に還元して、保健医療福祉・教育の学術の発展に寄与する。	産学連携事業・研究の推進のための学内の基盤整備	1-① 研究活動及び研究内容の充実・発展に向けて、研究専念日や既存の研究専念制度の活用を促す。(研究日の取得: 学部で 1 名/年)	△
			2-① 研究倫理に関する研修会を 1 回/年開催し、出席率 100%とする。(2022 年 9 月)	◎
			2-② 電子的インフォームドコンセントについて整備する。(2023 年 2 月)	◎

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
地域連携	地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学等と連携共働の事業を推進する。	保健医療福祉・教育分野で浜松市との連携の継続	1-① 「浜松市との連携事業～大学生による講座」を年間6講座実施する。	◎
		地域連携事業の発展による教育・研究・実践の地域モデルの構築	1-② 2023年度地域連携事業費の応募件数を増やす。(5件)	◎
			1-③ 地域連携推進センター登録事業における本学教員や学生の地域での活躍を積極的に大学ホームページで取り上げる。(HPへの掲載10件)	◎
			1-④ 地域連携推進センター登録事業(個々の学内教員の活動のうち、地域連携推進センターに登録して行うもの)を開始する。(登録11件)	◎
入試・広報	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 保健医療福祉及び教育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。	募集広報活動の見直しと取り組み	1-① 入学者数の確保 看護156名、理学44名、作業33名、言語28名、社会福祉61名、国際教育51名、専攻科17名	△
		情報収集と企画に基づく戦略的な募集広報活動の展開	1-② 心理やこどもに関心のある高校生に本学が養成する専門職を紹介することで、関連する学部学科の出願者数を増やす。	○
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。	高大連携校との強固な関係構築	2-① 重点校への訪問を年3~4回行う。	○
		こども園から大学・大学院、卒業生循環型の学生募集体制の確立	2-② クリストファー高校との連携の機会を増やす(復活させる)。	○
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 高大接続改革、学習指導要領の改訂に対応した入試制度となっているか、毎年実施する追跡調査も参考に見直しを継続する。	2025年度新課程入試への対応	3-① 2025年度新課程入試への対応	○
		学校推薦型選抜の評価と見直し	3-② 看護学部とリハビリテーション学部での学校推薦型選抜(指定校制)の導入を検討する。	◎
			3-③ 学校推薦型選抜(併設校)の選抜方法について、上記指定校制の内容を踏まえた見直しを行う。	○
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 保健医療福祉及び教育の総合大学としての価値とブランド力の向上を図る。	募集広報活動の見直しと取り組み	4-① オープンキャンパスへの参加者を増やし、満足度も高めることで志願者増につなげる。	◎
高大連携校との強固な関係構築		4-② 重点校との関係を強化する。	○	

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価	
入試・広報	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。	募集広報活動の見直しと取り組み こども園から大学・大学院、卒業生循環型の学生募集体制の確立	5-① 過去3年間の平均志願者数(実人数)を上回る志願者を得る(5%以上)。 5-② 公開講座および商業施設でのイベントを実施し、より広い地域での学部および専門職の認知を広げる。	△ ◎	
	アドミッション・ポリシーに適した資質の高い入学者を受け入れる。 こども園から大学・大学院、卒業生循環型の募集活動を推進する。	募集広報活動の見直しと取り組み	6-① 社会福祉学部の入学者を確保する(61名)。 6-② 国際教育学部の入学者を確保する(51名)。	△ ◎	
	図書館	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	ICT活用やeポートフォリオ等の学修ツールの活用定着	1-① 授業・演習への支援参加・図書館ガイダンスの継続・拡充。	◎
		隣人愛の精神のもと愛と活気あるグローバルキャンパスを作る。	建学の精神と、自校愛の醸成に向けた学生との協働	2-① 図書フェアの開催、貸出ベスト3等の紹介を行い、貸出冊数を300冊増やす。	△
	学園の将来構想(グローバルスクール:国際教育学部、メディカルスクールの設置)に向けた大学改革を実行する。	2023年4月「国際教育学部の開設準備	3-① 「国際教育学」「教育学」「心理学」等の図書・雑誌を見直す。	◎	
ICT	社会の技術革新に適う人材育成に向けた、ICT等の教育ツールの活用と教育・学生支援を充実する。	授業、演習での必携パソコンの全面的な活用	1-① 対面、2教室、Zoomの授業形態ごとに活用するICT機器の違いを整理し、教員が理解できる状態にする	◎	
			1-② 必携パソコンをグループワークに活用できる環境の整備	◎	
	快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。	ICT環境の高度化	2-① 高速、大容量に対応した、安定したインターネット接続環境の再構築	◎	
	学生の自律学修を促し創造性を養うため、アクティブラーニングによる授業を推進し、ICTの活用や地域における実践活動による教育方法を開発する。	ティーチング・ポートフォリオの実施 ディプロマサプリメントの発行	3-① ティーチング・ポートフォリオ、ディプロマサプリメントのシステム上への構築	◎	

部門	中期目標	短期・中期計画	到達目標	評価
基盤整備	学園の将来構想（グローバルスクール：国際教育学部、メディカルスクールの設置）に向けた大学改革を実行する。	2023年4月「国際教育学部」の開設準備	1-① 国際教育学部を2023年4月に開設する。	◎
	内部質保証システムを有効に機能させ、自律的に自己点検・評価と改善を図るとともに、適切に情報公開する。	認証評価受審の準備（2022）と受審（2023）	2-① 大学基準協会の認証評価を受審するための準備を行う。（3月完了）	○
	業務の効率化・合理化とコスト管理を行い、資源の有効活用を促す。	働き方改革関連法施行に伴う教員の働き方改革の推進と教員活動記録の様式の改善見直し	3-① フレックスタイム制の運用の課題をまとめ、改善が必要なことを次年度の運用に向けて反映する。	○
	教育研究並びに諸活動の質の向上を促すため、公正かつ適切な教員評価を実施する。	教員評価制度の評価方法の見直し	4-① 教員人事評価規程を改定する。（3月までに）	○
	快適な学習環境の実現と主体的な学修の推進および学修力の向上を促すため、教育環境の点検と整備・充実を図る。	校舎・教室等の保全と改修・修繕	5-① 1502 自然科学実験室2を改修する。	○

中長期財務計画 学園全体【2021年度決算-2027年度】

◆事業活動収支計算書

主な事業計画(要因)	小学校 全学年開校 4号館耐震工事	グローバルスクール生 中学進学	国際教育 学部開設		グローバルスクール生 高校進学	グローバルスクール生 60名中学進学	
	2021年度 決算	2022年度 決算	2023年度 中長期	2024年度 中長期	2025年度 中長期	2026年度 中長期	2027年度 中長期
1 学生生徒等納付金	2,855,963	2,901,118	2,925,693	2,988,261	3,072,846	3,186,945	3,260,925
2 事業活動収入 ①	4,151,186	4,216,658	4,014,708	4,067,816	4,157,344	4,304,944	4,439,294
3 人件費 ④	2,483,156	2,544,088	2,682,527	2,736,931	2,784,673	2,857,216	2,909,517
4 教育研究経費	889,001	965,449	957,420	1,003,617	1,086,438	1,060,357	1,073,277
5 管理経費	335,568	353,635	352,135	352,461	350,931	363,216	374,148
6 その他支出(借入金利息等)	23,670	27,281	22,366	27,353	25,381	23,733	21,151
7 事業活動支出②	3,731,395	3,890,453	4,014,448	4,120,362	4,247,422	4,304,522	4,378,093
8 事業活動収支差額③(①-②)	419,791	326,205	260	△ 52,546	△ 90,078	422	61,202
9 事業活動収支差額比率③/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	10.1%	7.7%	0.0%	△ 1.3%	△ 2.2%	0.0%	1.4%
10 人件費比率④/① (事業活動収支差額/事業活動収入)	59.8%	60.3%	66.8%	67.3%	67.0%	66.4%	65.5%

◆資金収支計算書

借入金8億円(GS新校舎用7億、こども園増築用1億)予定

主な事業計画(要因)	小学校 全学年開校 4号館耐震工事	土地購入 グラント造成 駐車場造成	グローバル校舎 工事開始 国際教育学部 設置	GS校舎建築 長期借入金 土地購入 駐車場造成	GS校舎利用開始 こども園増築	借入金返済開始 GS60名中学進学	
	2021年度 決算	2022年度 決算	2023年度 中長期	2024年度 中長期	2025年度 中長期	2026年度 中長期	2027年度 中長期
11 資金収支 収入の部 ⑤	4,126,515	4,609,819	4,036,522	4,786,663	4,284,794	4,319,739	4,451,294
12 借入金返済、返済利息	176,500	159,689	179,646	184,613	182,641	215,993	213,411
13 施設設備費(固定資産)	227,163	742,081	136,881	92,118	85,235	93,821	86,047
14 資金収支 支出の部 ⑥	3,872,503	4,497,111	4,225,578	5,234,639	4,907,978	4,454,558	4,594,797
15 資金収支差額 ⑦ (⑤-⑥)	254,012	112,708	△ 189,056	△ 447,976	△ 623,184	△ 134,819	△ 143,503
16 次年度繰越支払資金⑧	4,743,283	4,855,991	4,666,935	4,218,959	3,595,775	3,460,956	3,317,453

中長期財務計画においては、教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。

財務計画は主な要点をベースとし、財務構造を人件費 60～65%、教育研究経費 20～25%、管理経費 5～7%、収支差額 3～7%を目安に策定しております。また、施設設備においても、大学1号館は建築 25 年以上、2・3 号館と中高校舎は 15 年以上となり、計画的に修繕を行う計画をしており、エアコン取替工事や校舎内蛍光灯のLED化を計画し、毎年実行しております。

2020 年度に小学校が開設しました。さらに、2022 年度には、小学校を卒業した児童が進学するコースとして、中学校にグローバルスクールコース制を導入致しました。これらの学校については、学年進行に伴い、収支は改善していく見込です。

事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

2023年度は建学の精神である「生命の尊厳と、隣人愛」の教育活動・行事等の充実した運営を行います。専門学校の特徴である「礼拝」や「はじめの会」、「おわりの会」を大切に学生による運営がスムーズに行えるように支援します。それらを通し自分で考え行動でき、かつ自由にしかし礼節を知る学生を涵養していきます。そのために教員全員が学生ひとりひとりを大切に、質の高い教育実践を追及します。

2023年度は2名の外国人留学生在が国家試験を受けることとなります。両名が国家試験に合格できるように国家試験対策を更に強化します。また多くの外国人留学生在が安心して学べる環境の構築にも努めます。

2023年度は以下の4項目に重点を置き学校運営を推進します。

- 1 入学者を確保するための学生募集活動
- 2 知識や技術の深い理解とともに、人間力と実践力を涵養する教育の徹底
 - (1) 満足度の高い授業展開を図る
 - (2) 学力評価試験や模擬試験を有効的に用い、介護福祉士国家試験に全員が合格するよう教育・試験対策を強化する
- 3 学生支援の充実
- 4 外国人留学生の受け入れ後の対応

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 2022年度事業計画 評価

1 入学者を確保するための学生募集活動 (2023年度入学者目標数40名)

高校生、保護者の介護に関するイメージ向上を図るため、介護の魅力・やりがい・将来性などをオープンキャンパス、高校内ガイダンスなどを通して教員および介護現場で働く方(特に卒業生)から伝えていくことを継続します。5月を目処に受験生情報サイトのリニューアルを完了し、ホームページからも高校生がより介護に興味を持てるようにします。

① 接触者を増やし、確実に出願・入学に繋げる。

ホームページ、受験生情報サイトを充実させ、オープンキャンパス等の募集行事への参加者増を図ります。また、その後の出願まで繋がるようにサンクスレター、ダイレクトメールを定期的を送付します。

評価：△

予定通り行事・施策を行ったが、オープンキャンパス等の接触が昨年とほぼ同数であり、十分な接触者が得られなかった。接触者が確実に出願・入学につながるよう、オープンキャンパス時の個別相談の持ち方など見直しを行うなど工夫したが、入学者は23名(うち6名が外国人留学生)にとどまった。

② 卒業生の活躍をホームページや募集行事において紹介する。

地域で活躍している卒業生をホームページで紹介するほか、オープンキャンパス等の募集行事で講話をお願いすることで、介護の魅力・やりがいを伝えていきます。

評価：○

8/20のオープンキャンパスなどで施設からの中継など新しい試みで卒業生の活躍を発信した。

③ 修学支援制度および近隣法人と連携した奨学金制度を分かりやすく伝える。

修学支援制度に関する情報提供を継続するほか、近隣法人と連携した奨学金制度を丁寧に分かりやすく紹介します。奨学金を希望する高校生には本校への出願とあわせて施設見学・役員面接へとスムーズに進めるようサポートをしていきます。また、コロナウィルス感染症の収束した際には「福祉のお仕事体験」を再開します。

評価：○

実施し、多くの学生が制度を利用している。入学希望者にも個別に説明し、入学前の申請についてもサポートを行っている。「福祉のお仕事体験」も今年度の夏から再開した。

④ 外国人留学生、社会人への広報を行う。

アジアからの外国人留学生を継続して受け入れるために、県内の日本語学校4校を中心に募集広報活動を展開します。外国人留学生には介護福祉士の仕事内容に加えて魅力・やりがいを伝え、将来をイメージできるようにします。

社会人へのアプローチについては、ホームページに社会人の入学に関する情報を増やすほか、新しい接点をもつための広報・広告について検討し、実行します。

評価：△

外国人留学生については、浜松日本語学院以外の日本語学校から2件問い合わせがあり、訪問等も行ったが、日本語力の問題などもあり、出願・入学につながっていない。留学生は口コミによるところが大きいので、今後在校生からのヒアリングを行う。

2 知識や技術の深い理解とともに、人間力と実践力を涵養する教育の徹底

(1) 満足度の高い授業展開を図ります。

- ① 授業評価の低い科目については授業内容等を見直し、授業の内容、方法の改善を図ります。
- ② 主体的学修（アクティブラーニング）を促す授業展開を推進します。

評価：○

WebClassなどの活用で事前・事後学習を行う科目を増やした。グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションも積極的に行った。

(2) 学力評価試験と介護福祉士国家試験に全員が合格するように教育・試験対策を強化します。

- ① 特別な支援を必要とする学生や外国人留学生を中心にグループ学習や個別学習を強化します。
- ② 国家試験対策委員と専門学校教員が中心となり、学生がお互いに助け合いながら国家試験の勉強に取り組めるように支援を行います。

評価：○

社会福祉学科と協働をし、国家試験対策を行った。特に特別な支援を必要とする学生に対して補講授業などの計画を立てて実施した。

3 学生支援の充実

(1) 就職・キャリア支援

- ① 奨学金支援法人との協力

学生がキャリアデザインを描けるよう、奨学金支援法人の採用担当者や就職した卒業生に対して就職支援行事等での講話依頼を継続します。合わせて、当該法人の運営理念等の理解を深めることで就職につながるよう支援していきます。

評価：○

12月に卒業生と在学生との懇談会、3月に聖隷福祉事業団単独の説明会及びクリストファー一介護福祉士奨学会加盟施設を中心とした施設説明会を実施した。

② 編入学

学生が大学への編入という選択肢について、就職活動前に十分に検討できるように積極的に学園内推薦編入学制度の利用を促し、福祉分野でより高い専門性と知識を実践するための学修を学園内で継続できるよう支援していきます。

評価：○

2年次生は3名が編入学の予定。1年次生は春・秋セメスターのガイダンス時に説明済みであり、意向のある学生に対して科目等履修を勧めている。また12月に「卒業生と在学生との懇談会」で実際に編入した卒業生からの話を聞いた。

③ 卒業生支援

卒業生同士の情報交換のほか在学生との交流等を継続できるよう、ホームカミングデーや教員が行っている勉強会等の案内についてホームページを中心に継続して発信していきます。計画的に情報更新をすることで、卒業生の接触機会の維持につなげます。

評価：○

施設で行われる研修などのサポートを行った。このほか、ホームカミングデー実行委員会での開催に向けた準備の様子は都度HPに掲載。また勉強会・研究会の案内もHPに掲載し、4月・9月には郵送による案内も実施した。

(2) 学生生活

建学の精神「生命の尊厳と隣人愛」を具現化した、学生支援を深め、だれもがその人らしい学生生活が送れるように支援します。

- ① 日本人学生と外国人留学生が共に学びあい、育ちあうように、教育や学生支援を行います。
- ② 人間力や組織運営力の涵養を図るために行われる、専門学校独自の行事を強化します。
- ③ 交通事故等の発生がないように、各セメスターのガイダンス時等で学生に呼びかけします。

評価：◎

礼拝、授業、朝の会、個別面談、各種注意喚起など、折に触れ行っている。

4 外国人留学生の受け入れ後の対応

外国人留学生の入国管理、公的機関に関する手続き、資格外労働の管理、日本語支援等、生活全般にわたるサポートを行います。外国人留学生が安心して生活し、学業に専念できる環境を作り、自立して日本での生活ができるよう、支援します。

評価：◎

留学生の在留資格更新手続きの準備と支援、在籍状況やアルバイト時間数などについて、適正な管理を行っています。また、面談を行い、学修や生活で困っていることや悩みがないか確認したり、社会保険や年金など留学生にとって難しい手続き事項について一緒に対応したりしています。2022年度は教務主任と連携しながら日本語学習や日常生活の支援も行いました。

◆ 学生募集の推移

		入学定員	2023年度入学		2022年度入学		2021年度入学	
			志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
大学院	看護学研究科	15	12	10	5	5	11	11
	博士前期課程	10	8	7	4	4	7	7
	博士後期課程	5	4	3	1	1	4	4
	社会福祉学研究科	13	3	3	2	1	5	3
	博士前期課程	10	2	2	2	1	3	2
	博士後期課程	3	1	1	0	0	2	1
	リハビリテーション科学研究科	20	9	9	8	8	13	13
	博士前期課程	15	7	7	6	6	10	10
	博士後期課程	5	2	2	2	2	3	3
	大学院合計	48	24	22	15	14	29	27
大学	看護学部	150	685	158	616	160	711	158
	看護学科	150	685	158	616	160	711	158
	助産学専攻科	15	34	17	48	17	37	17
	社会福祉学部	70	118	56	132	56	116	53
	社会福祉学科	60	114	52	128	52	111	48
	編入学	10	4	4	4	4	5	5
	リハビリテーション学部	95	335	89	448	106	484	110
	理学療法学科	40	183	49	236	43	261	53
	作業療法学科	30	94	23	123	38	121	28
	言語聴覚学科	25	58	17	89	25	102	29
	国際教育学部（※）	50	133	52	99	34	92	32
	こども教育学科	50	133	52	99	34	92	32
	大学合計	380	1,305	372	1,343	373	1,440	370
総合計	428	1,329	394	1,358	387	1,469	397	

（※）国際教育学部は2023年度開設。2021、2022年度は社会福祉学部こども教育福祉学科の人数。

		入学定員	2023年度入学		2022年度入学		2021年度入学	
			志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
介護福祉専門学校		40	23	23	22	22	29	28

◆ 国家試験合格率の推移

看護師・保健師・助産師国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	所属	2022年度		2021年度		2020年度	
		全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
看護師	大学	97.1%	100.0%	97.5%	99.4%	97.4%	98.7%
保健師	大学	97.5%	100.0%	94.2%	100%	97.4%	96.7%
助産師	専攻科	97.5%	100.0%	99.6%	100%	99.7%	100.0%

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2022年度		2021年度		2020年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
社会福祉士	65.0%	75.9%	52.4%	50.9%	50.7%	54.0%
精神保健福祉士	78.8%	94.7%	73.3%	94.7%	71.4%	85.7%

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士国家試験の合格率（全国大学新卒者）

資格名	2022年度		2021年度		2020年度	
	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学
理学療法士	96.8%	100.0%	90.9%	95.7%	89.6%	100.0%
作業療法士	93.2%	91.9%	91.7%	88.2%	90.6%	90.6%
言語聴覚士	86.7%	80.0%	89.7%	89.3%	86.5%	88.5%

介護福祉士国家試験の合格率（養成施設新卒者）

資格名	2022年度			2021年度			2020年度		
	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門 学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門 学校	全国平均	社会福祉学部 介護福祉学科	介護福祉専門 学校
介護福祉士	75.6%	100.0%	100.0%	65.3%	100.0%	88.9%	72.9%	100.0%	95.8%

◆ 卒業生・修了生の進路状況（大学）

2022年度 卒業生・修了生の進路状況

看護学部卒業生の内訳

（単位：人）

卒業生数	151	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数（*1）	139	看護師	131	105	26
		保健師	6	6	0
		養護教諭	2	2	0
進学者数	11				
その他（*2）	1				

（*1） 聖隷三方原病院…38名、聖隷浜松病院…38名、聖隷横浜病院…5名、袋井市立聖隷袋井市民病院…3名、合計84名（就職者の60.4%）

（*2） 「その他」は就職しない者1名です。

助産学専攻科修了生の内訳

修了生数	17	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数(*1)	17	助産師	17	12	5

(*1) 聖隷三方原病院…1名、聖隷浜松病院…3名、合計4名（就職者の23.5%）

社会福祉学部社会福祉学科、介護福祉学科卒業生の内訳

卒業生数	62 (社46/介16)	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数(*1)	60 (社45/介15)	福祉施設	31/14	29/11	2/3
		医療機関	10/0	8/0	2/0
		公務員	3/1	3/1	0/0
		その他	1/0	1/0	0/0
その他(*2)	2 (社1/介1)				

(*1) 聖隷福祉事業団…18名（就職者の30.0%）

(*2) 「その他」は就職しない者2名です。

社会福祉学部こども教育福祉学科卒業生の内訳

卒業生数	29	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数(*1)	29	公立小学校	8	5	3
		私立小学校	1	1	0
		特別支援学校	4	2	2
		公立幼稚園・保育園	1	1	0
		私立幼稚園	0	0	0
		こども園	4	4	0
		民間保育園	8	6	2
		社会福祉施設	2	2	0
		公務員	0	0	0
		一般企業	1	1	0

(*1) 聖隷学園・聖隷福祉事業団…3名（就職者の10.3%）

リハビリテーション学部卒業生の内訳

卒業生数	116	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数(*1)	102	理学療法士	47	34	13
		作業療法士	33	23	8
		言語聴覚士	22	13	7
進学者数(*2)	3				
その他(*3)	13				

(*1) 聖隷福祉事業団…13名（就職者の13.3%）

(*2) 進学者3名のうち、2名は就職し、本学大学院に進学しています。

(*3) 「その他」は、就職活動中2名、就職しない者11名です。

◆ 就職支援（大学）

2022年度 主な就職支援プログラム			
4月	春semester進路ガイダンス 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【介】介護福祉士国試対策講座	10月	公務員試験対策講座 【介】介護福祉士国試対策講座
5月	【看】進路ガイダンス 【介】介護福祉士国試対策講座 【PT・OT】進路ガイダンス	11月	【看】4年次生による就職活動報告会 【看】保健師国試対策講座 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【社・介】卒業生による福祉の仕事報告会 【社・介・こ】4年次生による就職活動報告会 【社・介】就職先研究(天竜厚生会) 【社・介】就職先研究(聖隷福祉事業団) 【こ】卒業生と在学生との懇談会
6月	【ST】進路ガイダンス	12月	【看】看護師・保健師共通国試対策講座 【看】保健師国試対策講座 【社・介・こ】スーツ着こなし講座 【社・介・こ】SPI対策模擬テスト 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【介】介護福祉士国試対策講座 【こ】就職先研究(聖隷福祉事業団) 【こ】就職先研究(天竜厚生会) 【PT・OT】リハビリテーション国試対策講座
7月	【看】進路ガイダンス 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【PT】進路ガイダンス	1月	【看】進路ガイダンス 【看】看護師国試対策講座 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【介】介護福祉士国試対策講座 【PT・OT】4年次生による就職活動報告会 【PT・OT】就職先研究(聖隷福祉事業団)
8月	公務員試験対策講座 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【PT・OT・ST】病院・施設説明会(聖隷関係) 【OT・ST】進路ガイダンス	2月	卒業時ガイダンス 【看】進路ガイダンス 【看】卒業生と在学生との懇談会 【社・介】社会福祉士国試対策講座 【社・介・こ】SPI対策模擬テスト 【PT・OT・ST】就職マナー・面接対策講座 【PT・OT・ST】スーツ着こなし講座 【ST】就職先研究(聖隷福祉事業団)
9月	秋semester進路ガイダンス 公務員試験対策講座 【社・介】社会福祉士国試対策講座	3月	論作文対策講座、筆記試験対策講座 【看】病院説明会(静岡県・愛知県東部) 【看】病院・施設説明会(聖隷関係) 【看】就職マナー講座 【看】スーツ着こなし講座 【看】履歴書の書き方講座 【社・介・こ】大規模法人就職説明会 【社・介・こ】施設説明会 【ST】4年次生による就職活動・国試報告会

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

※【看】：看護学部対象 【助】：助産学専攻科対象

【社】：社会福祉学科対象 【介】：介護福祉学科対象 【こ】：こども教育福祉学科対象

【PT】：理学療法学科対象 【OT】：作業療法学科対象 【ST】：言語聴覚学科対象

◆ 卒業生の進路状況（専門学校）

2022年度 卒業生の進路状況

（単位：人）

卒業生数	23	内訳		静岡県内	静岡県外
就職者数（*1）	20	介護福祉士	20	20	0
進学者数	3				

（*1） 聖隷福祉事業団…14名（就職者の70%）

◆ 就職支援（専門学校）

2022年度 主な就職支援プログラム			
4月	進路ガイダンス 介護福祉士国試対策講座	10月	2年次生による就職活動報告会 介護福祉士国試対策講座
5月	介護福祉士国試対策講座 社会人になるための基礎講座 社会人マナー講座	11月	
6月	スーツ着こなし講座 メイクアップ講座	12月	介護福祉士国試対策講座 卒業生と在学生との懇談会 履歴書の書き方・面接の受け方講座
7月		1月	介護福祉士国試対策講座
8月		2月	就職内定後の心構え・社会人としての心構え講座 卒業時ガイダンス
9月	進路ガイダンス	3月	聖隷福祉事業団採用試験説明会 施設説明会 進路ガイダンス

※随時：進路相談、履歴書添削、模擬面接

◆ 2022 年度奨学金受給状況《大学・大学院》

所属	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	大学同窓会・後援会奨学金	看護学研究科生支援奨学金	聖隷グループ奨学会	日本学生支援機構				K・M・奨学金	M・H・奨学金	難波千鳥奨学金	廣田育英会	浜松市奨学金	静岡県看護職員修学資金	静岡県看護協会修学貸与金	静岡県介護福祉士	静岡県保育士	ニッセイ聖隷健康福祉財団	合計			
						合計	第一種	第二種	給付											在学人数	貸与人数	受給割合	
看護学部	1年次	1			34	70	28	28	14				0	0	1	0				160	106	66.3%	
	2年次	0	0		30	67	26	31	10	1			0	0	4	0				153	102	66.7%	
	3年次	0	0		32	67	24	28	15	0	0	1	0	1	2	0				152	103	67.8%	
	4年次	0	0		64	59	28	16	15	1	2	0	0	0	0	0				157	126	80.3%	
	計	1	0		160	263	106	103	54	2	2	1	0	1	7	0				622	437	70.3%	
社会福祉学部	1年次	1			0	38	11	16	11				0	0			1	6	0	85	46	54.1%	
	2年次	0	0		0	44	15	17	12	0			0	0			4	3	0	76	51	67.1%	
	3年次	1	0		0	47	14	25	8	0		1	0	0			6	1	0	100	56	56.0%	
	4年次	0	1		0	23	9	8	6	0		0	0	0			7	0	0	93	31	33.3%	
	計	2	1		0	152	49	66	37	0		1	0	0			18	10	0	354	184	52.0%	
リハビリテーション学部	1年次	0			1	46	12	22	12				1	1					0	105	49	46.7%	
	2年次	0	0		3	39	17	17	5	0			1	0					0	107	43	40.2%	
	3年次	0	0		1	66	25	30	11	0			0	0					1	105	68	64.8%	
	4年次	1	0		0	61	29	21	11	0			0	1					1	122	64	52.5%	
	計	1	0		5	212	83	90	39	0			2	2					2	439	224	51.0%	
学部計		4	1		165	627	238	259	130	2	2	2	2	3	7	0	18	10	2	1,415	845	59.7%	
助産学専攻科		0			3	2	1	1							2	0				17	7	41.2%	
大学院 博士 前期課程	1年次					1	1	0												11	1	9.1%	
	2年次				1	2	2	0													30	3	10.0%
	計				1	3	3	0													41	4	9.8%
大学院 博士 後期課程	1年次					0	0	0													3	0	0.0%
	2年次				1	1	1	0													8	2	25.0%
	3年次				0	0	0	0													33	0	0.0%
	計				1	1	1	0													44	2	4.5%
大学院計					2	4	4	0													85	6	7.1%
大学全体		4	1	2	168	633	243	260	130	2	2	2	2	3	9	0	18	10	2	1,517	858	56.6%	

は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2022年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆ 2022 年度奨学金受給状況《大学・大学院》

所属	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	大学同窓会・後援会奨学金	日本学生支援機構			K・M・奨学金	浜松市奨学金	静岡県介護福祉士修学資金	聖隷福祉事業団奨学金	クリストファー介護福祉士奨学金	天龍厚生会介護福祉士奨学金	ニッセイ聖隷健康福祉財団	合計			
				合計	第一種	第二種								給付	在学学生数	貸与人数	受給割合
介護福祉専門学校	1年次	0		3	0	1	2		0	0	4	5	0	0	22	12	54.5%
	2年次	1	0	1	0	1	0	0	0	6	14	3	0	0	24	25	104.2%
	合計	1	0	4	0	2	2	0	0	6	18	8	0	0	46	37	80.4%

■ は、対象外

※受給割合は、学生数に対する受給者の延べ人数の割合を示す

※受給割合は、2022年3月時点データ ※聖隷病院就職内定者の奨学金受給者を含む

◆グローバル教育推進

2022 年度の本学の交流協定校は以下の 10 校です。2022 年度新たにチェンマイ大学と交流協定を締結し、11 月にオンラインで締結式を開催しました。また、サミュエルメリット大学とは 2022 年 11 月にオンラインで交流協定更新のセレモニーを開催し、2023 年には交流協定の 10 年目を迎えます。

	国・地域	交流協定校名	締結日
1	中国	陸軍軍医大学 (Army Medical University)	2004 年 9 月 21 日
2	シンガポール	ナンヤン理工学院 (Nanyang Polytechnic)	2006 年 4 月 25 日
3	アメリカ	サミュエルメリット大学 (Samuel Merritt University)	2013 年 11 月 5 日
4	シンガポール	シンガポール工科大学 (Singapore Institute of Technology)	2017 年 9 月 26 日
5	オーストラリア	イーデス・コーワン大学 (Edith Cowan University)	2018 年 1 月 17 日
6	アメリカ	シアトルパシフィック大学 (Seattle Pacific University)	2019 年 3 月 14 日
7	アメリカ	ハワイ大学マノア校 (University of Hawaii at Manoa)	2019 年 5 月 2 日
8	中国	中山大学附属第一病院 (First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University)	2019 年 9 月 23 日
9	フィリピン	マリアノ・マルコス州立大学 (Mariano Marcos State University)	2021 年 5 月 27 日
10	タイ	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2022 年 11 月 1 日

2022 年度末には、徐々に現地（対面）での研修・実習を再開できるように交流協定校と話し合いを進めた結果、秋セメスターに 3 つのプログラムを再開しました。また、渡航が難しい時期はバーチャルで対応できるものを実施しました。

2023年2月20日・21日には本学大学院主催の聖隷国際研究コンファレンス2023(SIRC2023)を開催し、海外・国内から口頭発表28件(うち学内3件)、ポスター発表19件(うち学内4件)の発表がありました。本コンファレンスは5回目となります。また、“Student Work Showcase and Cultural Exchange”をテーマとした学生セッションを行いました。本学より2グループ、交流協定校より3グループが参加し、学修活動や文化の紹介を通して交流を深めました。

学術交流の一環として中山大學附属第一病院との合同オンラインセミナーを全3回開催し、本学教員・大学院生・学部生を含め延べ240名が受講しました。2022年度で3回目となります。

【学生派遣】

	プログラム	期間	対象	受入機関・内容	参加学生
国際専門研修	2022年度アメリカ言語聴覚学研修	2/4~2/14 11日間	言語聴覚学科 全学年	ハワイ大学マノア校ジョンAバーンズ医学部 講義・演習、施設見学、学生交流、文化体験等	ST2年7名 計7名
	2022年度国際理学療法実習	2/18~3/5 16日間	理学療法学科 3年次生 ※国際リハビリテーションコース必須科目	マリアノ・マルコス州立大学 講義、臨床実習、学生交流、文化体験等	PT3年5名 計5名 ※うち国際リハビリテーションコース学生3名
国際実習	2022年度国際作業療法実習	3/6~3/13 8日間	作業療法学科 3年次生 ※国際リハビリテーションコース必須科目	オーストラリア・メルボルンの大学、リハビリテーション施設 講義、施設見学、学生交流、文化体験等	OT3年1名 計1名 ※うち国際リハビリテーションコース学生1名

【バーチャルプログラム】

	プログラム	期間	対象	内容	参加学生
研修	シンガポール工科大学(SIT)とのバーチャル交流会	8/19 1日	国際リハビリテーションコース2~4年次生、国際保健医療福祉プログラム(副専攻)リハビリテーション学部1年次生	本学およびSIT教員の講義、ディスカッション、学生交流	本学11名 SIT14名 計25名
	マリアノ・マルコス州立大学(MMSU)との学生交流	9/1 1日	国際リハビリテーションコース2年次生	文化、COVID-19の影響や支援をテーマとしたグループワークおよび発表	本学6名 MMSU30名 計36名
	ナンヤン理工学院(NYP)に向けたバーチャル研修	3/14・ 3/15 2日間	NYP ソーシャルサイエンス学部看護学科・社会福祉学科学生	講義、施設ツアー、学生交流	NYP看護13名 NYP社会福祉10名 本学看護8名 計31名

1. 2022 年度の重点取組目標の振り返り

《中高一貫コース》

◆重点取組目標 1 教職員の資質能力および組織力の向上を図る。

	目標の達成方法（取組手段）	成果および評価
①	校内外の研修を積極的に企画し参加することで、主体的で向上心ある教員組織づくりを目指し、教員の資質の向上を図る。	・前年度の教員研修で作成したタグライン「誰かの幸せを、自分の喜びに」の実行・実現のため、意識的に取り組んだ教員は 97.7% でした。生きた言葉にしようという意気込みが浸透しました。
②	新学習指導要領の改訂ポイントを押さえ、教育課程について改善点等について各教科で検討する。	・次年度実施予定の、新時間割と 2 学期制に合わせ、新学習指導要領に沿った教育課程を作成できました。 ・観点別評価は高校 1 年生の評価において初めて行われ、理解が深まった教員が 71% でした。今後、定期的な研修を重ねていきます。
③	生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善等に取り組む。	・全教員が授業公開 1 回と授業参観 1 回を実施しました。 ・授業アンケートを実施しましたが、積極的に授業改善を進めるには、内容に一層の厳しさを盛り込むことが必要とされます。
④	教職員の多忙化の解消を図り、意欲を持って生徒に向き合う時間を確保する	・学年や分掌単位で業務の改善に取り組みました。教員の評価は 67.9% 次年度も継続する計画を進めています。

◆重点取組目標 2 基礎学力の定着を図り、生徒が主体的に取り組む態度を育成する

	目標の達成方法（取組手段）	成果および評価
①	ICT 機器等を活用した学習指導法や機器の活用法について、研究と実践をする。	・興味関心意欲を高める授業が実施できました。教員の評価は 79.9% ・よく分かる授業であったとの、生徒の評価は 79.9% ・授業配信用のタブレット、撮影スタンドが準備でき、欠席生徒への授業配信ができるようになりました。
②	課題やテストについて見直す。	・学力向上に役立つ課題が出されました。教員評価 78.9% ・テストの難易度を適正にするための工夫が試行されました。教員評価 71%
③	予備校主催などの研修会に、教員が積極的に参加する。	・英数科の担任や教科担当がオンラインの研修に多く参加できました。内容は教科・入試動向・進路指導など。
④	読書活動を充実させ、活字に親しむ習慣を確立させる。	・図書館利用者数はあまり伸びませんでした。授業での図書館利用は増えました。 ・読書習慣が付いたと感じる生徒は 56.6%。一方で読書をしないと答える生徒も、25%ほど。

◆重点取組目標3 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成する。

	目標の達成方法（取組手段）	成果と評価
①	新型コロナウイルス感染症対策の注意喚起を怠ることなく行う。	・消毒用アルコールの設置や黙食指導などを適切に行うことができました。 ・適切な感染防止策が行われたとの評価は、生徒91%、教員100%
②	本年から、常勤のスクールカウンセラーをおき、有効的に活用する。	・スクールカウンセラーが常勤することで生徒や保護者の相談を安定してすくい上げることができました。この環境が整ったことを評価する教員は100% ・心の安定と安心感のある学校生活を送れていると感じる生徒は83.4%
③	担任が生徒の状況を養護教諭や学習支援員と連携して把握し、保護者面談やカウンセラーへとつなぐ。	・欠席が増えた生徒に適切な声掛けをし、家庭への連絡をこまめに行いました。教員とスクールカウンセラーとの協働が促進されました。 ・転退学をさせない指導をしていると答えた教員は89% ・生徒支援カルテの整備を進めることが、今後の課題です。
④	アンケートにおいて、体罰といじめについて調査・確認する。	学期に一度アンケートを実施し、体罰・いじめともにゼロでした。人間関係のトラブルの萌芽に、早期に対応することができました。

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標1 建学の精神を礎に、生徒・保護者・教員が互いに信頼を深め教育活動を展開する。

- 建学の精神に関する教員研修を毎週のスタッフミーティングの中に取り入れました。短時間の学びを定期的に行ったことにより、徐々に理解を深めることができました。また、この取り組みにより、今後も継続的に学びを続ける形を作ることができました。
- 授業内で協働学習の機会を多く持ち、生徒同士のコミュニケーションの機会を増やすことにより、生徒が互いの違いを認め共に支え合う人間関係の構築を図りました。
- 週に一度、放課後に保護者が自由に来校し、教員や保護者同士で交流できる機会を設け、学校・保護者一体となった教育活動の実現を図り、保護者の不安の解消や信頼関係の構築に役立てることができました。

◆重点取組目標2 コースの独自性・特徴を生かした教育活動を実施する。

- 英語イメージンによる各教科の授業の中で、教科の学習をしながら英語4技能の向上を図り、約9割の生徒が英語力の向上実感を持つことができました。今後は、英語4技能の客観的なアセスメントを定期的に行うシステムを構築する計画です。
- 探究的な学びを推進するために、与えられた問いに対し生徒が自分の考えを发表或し、互いの意見を交わしたりする機会を多く設けるように努めました。年度末には約9割の生徒が主体的に学習に取り組むことができているという自己評価をしました。

OMYP・DPの教育内容を研究し、グローバルスクールコースの現状に合った指導体系の構築を目指しました。その結果、高2・高3で取り組む予定となっているDPの学習につながるグローバルスクールコース独自の学習スキルの総体系（GSCスキル）を作成することができました。今後は、このGSCスキルを明示的に取り入れた授業や評価を行い、生徒のアカデミック・スキルを伸ばしていきます。

2. 2023年度の重点取組目標と展望

教育目標『自分のようにあなたの隣人を愛しなさい』の建学の精神のもと、キリスト教主義学校の特色と魅力に満ちた学校づくりを推進する。

この目標を具現化するために今年度の重点取組目標に掲げます。

《中高一貫コース》

◆重点取組目標1 教職員の資質向上および業務の効率化と多忙化の解消を図る。

	目標の達成方法(取組手段)	成果目標
①	日課の変更による時間を有効に使い、生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善等に取り組む。	・全教員が自教科と他教科について各1回以上の授業参観を実施します。
②	校内外の研修に積極的に企画・参加することで、主体的で向上心ある教員組織づくりを目指して教員の資質の向上を図る。	・タグライン「誰かの幸せを、自分の喜びに」の実現のため、具体的なアクションプラン(テーマ)を立て、意識して取り組みます。
③	管理職の下、入試問題の作成方法の見直しと期日の厳格化、進捗状況、問題の検証等のチェック機能を構築化する。	・教科ごとに入試作成のチェック項目を整備し、教科の全教員が分担してミスなく作成します。
④	日課の変更に伴い、教職員の多忙化の解消を図り、意欲を持って生徒に向き合う時間を確保する。	・各学年・分掌で業務改善・軽減に関する取組の具体案を決め、実行します。

◆重点取組目標2 基礎学力の定着を図るとともに、進路目標の実現に向け、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する

	目標の達成方法(取組手段)	成果目標
①	全生徒がタブレットを持つことで、ICT機器等を活用した新たな学習指導法やICT機器等の活用法等について研究と実践。 AL型授業の研究と実践。	・「興味・関心や意欲を高める授業がタブレットを用いて行われている」と答える生徒 80%以上を目指します。 ・「授業の内容がよく分かる」と答える生徒 80%以上を目指します。
②	定期テストについて、担当によって評価に差が生じないようにする。また、指導の検証・振り返り・改善に結び付けることができるようにする。	・授業の内容やレベル、進度等について、クラス間や教員間で差が出ないように、教員間の連携を図り、授業改善に取り組みます ・教員の目標 90%以上
③	進路目標の実現に向け、一般選抜(共通テストを含む)、学校推薦型選抜、総合型選抜等、生徒の興味関心に基づいて進路を選び、対策を立て最適な進路指導を行う。	・進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てます。 ・生徒に対して、進路選択に関する情報提供が適切に行われるよう、工夫します。 ・生徒の満足度目標 90%以上

《グローバルスクールコース》

◆重点取組目標 1 特徴ある教育の充実を図ります。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	スタッフミーティングの中で建学の精神を理解・実践するための研修を継続し、本校の教育理念に沿った教育活動の充実につなげる。	「建学の精神の理解が深まった」と答える教員 80%以上を目指します。
②	生徒が体験活動の中で建学の精神を育む機会を設ける。	「建学の精神の理解が深まった」と答える生徒 80%以上を目指します。
③	生徒が英語を用いる活動を増やし、イメージプログラムを向上させる。	「グローバルスクールコースの英語イメージにより英語力がさらに向上した」と答える生徒 80%以上を目指します。
④	学習スキルを体系化したコース独自の教育を実践し、DP に繋がる探究プログラムを展開する。	「学習スキルを意識して学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上を目指します。

◆重点取組目標 2 安心・安全な充実した学校生活を通して、様々な活動に主体的に取り組む態度を育成します。

	達成方法(取組手段)	成果目標
①	生徒・保護者とコミュニケーションを十分に図り、問題の早期発見に努める。	「生徒の問題を早期に発見し支援することができた」と答える教員 80%以上を目指します。
②	教育相談体制を充実させ、生徒理解と個に応じた指導・支援を行う。	「スクールカウンセラーと連携し個に応じた指導・支援ができた」と答える教員 80%以上を目指します。
③	早期に対策会議を開き、組織的に問題解決にあたる。	「教員間で連携し問題を解決できた」と答える教員 100%を目指します。
④	発達支援に関する教員研修を年2回実施する。	「発達支援に関する研修が生徒支援に役立った」と答える教員 80%以上を目指します。

3. 2022 年度実績

1) 生徒募集の推移

(単位：人)

		入学定員	2023 年度入学者 (2022 年度募集)		2022 年度入学者 (2021 年度募集)		2021 年度入学者 (2020 年度募集)	
			志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
高校		294	1,176	333	1,173	360	1,178	386
中学	中高一貫コース	70	48	40	41	38	58	43
	グローバルスクールコース		14	13	—	—	—	—
	計		62	53	41	38	58	43

※高校の入学者数には中学校からの内進生を含みます。

2) 卒業生の進路状況

(単位：人)

	大学	短期大学	専門学校	受験準備	就職	留学	その他	合計
男子	104	2	18	10	7	0	0	141
女子	84	7	62	1	17	1	3	175
合計	188	9	80	11	24	1	3	316
比率	59.5%	2.8%	25.3%	3.5%	7.6%	0.3%	0.9%	100.0%

※留学は海外大学(ネブラスカ大学カーニー校)入学者。その他には留学先未定者1名を含みます。

3) 大学合格実績

《国公立大学 25名》

名古屋大(情報)1名、広島大(総合科学)1名、電気通信大(情報理工学域)1名、新潟大(法1、工1)2名、横浜市立大(国際商学)1名、浜松医科大(看護)1名、静岡大(工)1名、静岡県立大(国際関係)1名、静岡文化芸術大(文化政策)2名、信州大(経法1、人文1)2名、三重大(工)1名、山梨大(工)1名、富山大(工)1名、高知大(人文社会科学1、農林海洋科学1)2名、山口大(教育)1名、北見工業大(工)1名、秋田公立美術大(美術)1名、石川県立大(生物資源環境)1名、県立広島大(生物資源科学)1名、大阪公立大(法1、現代システム科学域1)2名

《私立大学 331名》

聖隷クリストファー大学45名(看護22、理学療法4、作業療法4、言語聴覚3、社会福祉6、国際教育6、うち入学者37名)、慶應義塾大(経済)1名、国際基督教大(教養)1名、明治大(商)1名、青山学院大(地域社会共生)1名、中央大(国際経営)1名、法政大(文3、法1、社会2、経済2)8名、関西大(法1、政策創造1)2名、関西学院大(人間福祉1、総合政策1、経済1、理1)4名、同志社大(グローバル・コミュニケーション)1名、立命館大(文2、総合心理3、経済1、経営1)7名、國學院大(法)1名、明治学院大(社会1、心理1、経済1)3名、南山大(外国語1、総合政策1)2名、同志社女子大(表象文化)1名、獨協大(経済)1名、日本大(国際関係3、生物資源1、スポーツ科学1)5名、東洋大(経営)1名、専修大(法1、人間科学4)5名、近畿大(法2、農6、薬3)11名、京都産業大(現代社会3、経営3、生命科学5)11名、龍谷大(心理2、社会2、国際1、政策3)8名、愛知大(文5、地域政策7、国際コミュニケーション1、経済2、経営6)21名、中京大(心理4、工3、スポーツ科学2)9名、名城大(法1、経済3、経営1、理工2、農4)11名、愛知淑徳大(心理1、創造表現1)2名、大東文化大(文1、国際関係1、スポーツ・健康科学1)3名、東海大(工1、生物2)3名、亜細亜大(国際関係)1名、帝京大(経済)1名、国土館大(21世紀アジア)1名、拓殖大(商)1名、武蔵大(経済)1名、東京農業大(農)4名、愛知学院大(文1、法1、総合政策2、経済1、商1)6名、中部大12名、常葉大34名(外国語5、経営6、健康鍼灸6、理学6、作業5他)、岐阜医療科学大(薬)2名、鈴鹿医療科学大3名(作業2、臨床工学1)、豊橋創造大7名(看護6、経営1)、人間環境大4名(松山看護2、看護1)、浜松学院大3名(現代コミュニケーション)3名他

4) 就職実績

《就職内定者 24名》

陸上自衛隊(一般曹候補生)1名、ヤマハ発動機1名、デンソー1名、朝日電装1名、A.I.S1名、浜松市リハビリテーション病院1名、グランドホテル浜松1名、スズキ部品製造4名、スズキビジネス1名、ヤタロー1名、他

5) 国際交流(高等学校)

派遣 / 受入	短期プログラム	長期プログラム
本校語学研修プログラム (3か月)	アメリカへ3名	
本校から私費留学	なし	アメリカへ1名
県教委主催海外体験促進事業 (語学研修)	なし	
受入れ留学生	なし	2022年4月～2022年8月 ドイツから1名 2022年7月～2023年3月 マレーシアから1名

※中学は実績なし

6) 部活動の主な実績

部活動名	2022年度 主な実績
男子 バレーボール	第70回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技西部地区予選大会 優勝 第70回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 優勝 第72回中部日本6人制バレーボール総合男女選手権大会 高校の部 優勝 第69回東海高等学校総合体育大会(インターハイ東海大会) 3位 第70回全国総合体育大会バレーボール競技 ベスト8 静岡県西部高等学校バレーボール選手権大会 優勝 第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会 静岡県予選大会 県大会 優勝 第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会出場
男子 サッカー	第70回静岡県高等学校総合体育大会サッカー競技 決勝トーナメント2回戦 第101回高校サッカー選手権静岡県大会 ベスト8 令和4年度静岡県高校新人体育大会サッカー競技静岡県大会ベスト8
野 球 部	第104回全国高等学校野球選手権 静岡大会 ベスト4 第75回秋季東海地区高等学校野球静岡県大会 ベスト8 第6回浜松市内高校野球大会 優勝 第5回チャンピオンシップ大会 優勝
女子 ソフトボール 部	第70回静岡県高等学校総合体育大会ソフトボール競技 準優勝 第33回中部日本私立高等学校女子ソフトボール選抜大会 第3位 第56回静岡県高等学校新人ソフトボール大会西部地区予選会 優勝 第56回静岡県高等学校新人ソフトボール大会 優勝 第36回東海地域高等学校女子ソフトボール新人大会 準優勝 第41回全国高等学校女子選抜大会出場
女子 バレーボール	第70回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技西部地区予選大会 優勝 第70回静岡県高校総合体育大会バレーボール競技静岡県大会 ベスト4 静岡県西部高等学校バレーボール選手権大会 3位 第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会静岡県予選大会ベスト8 令和4年度静岡県高校新人体育大会バレーボール競技西部地区予選大会ベスト4 令和4年度静岡県高校新人体育大会バレーボール競技静岡県大会ベスト8 令和4年度秋季北遠地区バレーボール大会 優勝

少林寺拳法部	<p>第 70 回静岡県高等学校総合体育大会少林寺拳法競技 男子総合優勝 女子総合優勝 男子単独演武 2 位 男子組演武 1 位 女子単独演武 2 位 女子組演武 1 位 男子団体演武 1 位 女子団体演武 1 位</p> <p>令和4年度全国高等学校総合体育大会 男子自由組演武第 4 位、男子団体演武 決勝進出</p> <p>令和 4 年度静岡県高等学校新人体育大会少林寺拳法競技 男子総合優勝 女子総合優勝 男子規定単独演武 2 位 男子自由単独演武 1 位 男子規定組演武 2 位 男子自由組演武 1 位 女子規定単独演武 1 位、2 位 女子自由単独演武 2 位 女子規定組演武 1 位 女子自由組演武 1 位、男子団体演武 1 位</p> <p>第 26 回全国高等学校少林寺拳法選抜大会出場 女子規定単独演武 2 位(準優勝)、女子自由組演武 9 位、男子規定組演武 13 位、男子団体演武 10 位、女子団体演武 12 位</p>
吹奏楽部	<p>第 63 回静岡県高等学校吹奏楽コンクール西部地区大会 高等学校 A 編成の部 金賞</p> <p>第 63 回静岡県高等学校吹奏楽コンクール 高等学校 A 編成の部 銅賞</p> <p>第 56 回静岡県管打楽器アンサンブルコンテスト西部地区大会 中学校混成三重奏 金賞、銀賞</p> <p>第 24 回中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 優秀賞 3 名</p>
放送部	<p>第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト全国大会 ラジオドキュメント部門 優良 (全国 282 作品中 5 位相当) 創作テレビドラマ部門 入選 (全国 337 作品中 6 位相当)</p>
かるた部	小倉百人一首競技かるた第 44 回全国高等学校選手権大会 E 級 2 回戦出場

聖隷クリストファー小学校

1. 児童募集の推移

入学定員* 60 人	志願者数	入学者数
2023 年度入学者 (2022 年度募集)	55	41
2022 年度入学者 (2021 年度募集)	52	45
2021 年度入学者 (2020 年度募集)	96	86
2020 年度入学者 (2019 年度募集)	102	92

*2020 年度入学者、2021 年度入学者は 1 年生 60 人、3 年生 30 人、5 年生 30 人を募集

*2021 年度入学者以降は 1 年生 60 人を募集

2. 教育の特色

本校の学びの根幹には、「自分のようにあなたの隣人を愛しなさい」というキリスト教の教えである「隣人愛」の精神があります。変化の激しい時代だからこそ、どんな時代になっても決して変わる事のない大切なことを土台として、すべての学びを展開しています。

◆英語イマージョン教育 English Immersion Education

本校の英語イマージョン教育は、母語である日本語力を大切にします。英語での授業は、多国籍の外国人による多様な見方に触れながら探究的に展開されます。2つの言語を知り、違う視点を持つことで、世界を、日本を、自分を深く知ることができます。もちろん、ツールとしての英語を身につけて、世界のどこにいても、自分で考え、表現できる力も養っていきます。児童は、外国人教員から英語で学ぶという環境で、日常会話レベルの英語から、学習英語レベルへと自然に英語力を身につけていきます。

◆探究型学習 Inquiry-based Learning

児童自らが課題を発見・設定し、その解決に向けて情報を収集・整理・分析し、友人や先生との意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動です。探究型の学習では、児童の思考力や判断力、表現力などの育成を目的としており、教科書の知識を詰め込む学習ではなく、体験活動を中心にすえ、主体的に学び問題を解決することで、次の学習に役立つ本当に理解された知識を積み重ねていきます。

3. 国際バカロレア初等教育プログラム

International Baccalaureate Primary Years Programme

2022年1月、聖隷クリストファー小学校とクリストファーこども園は、国際バカロレア機構（IB: International Baccalaureate）が提供する国際的な教育プログラムのうち、3～12歳児が対象となる「プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP）」の候補校認定を受けました。現在、2024年度にIBワールドスクール（認定校）になることを目指して取り組んでいます。

聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

◆ 年間行事

日付	内容
4月 1日(金)	保育開始
8日(金)	1学期始園日
9日(土)	入園式(59名入園)
16日(土)	保護者会総会、子育て講演会、クラス懇談会
20日(水)	イースター礼拝
5月 11日(水)	母の日礼拝
14日(土)	入園説明会(次年度入園希望3歳児対象)
24日(火)	オープン保育デー(5歳児)
25日(水)	
31日(火)	オープン保育デー(4歳児)
6月 1日(水)	
3日(金)	尿検査(4.5歳児)
8日(水)	花の日礼拝
9日(木)	花の日訪問
14日(火)	プール開き
21日(火)	オープン保育デー(3歳児)、 園外保育(5歳児) 里山体験
22日(水)	
28日(火)	視力検査(5歳児)、体験型PYPワークショップ(保護者対象)
30日(木)	歯科検診
7月 5日(火)	視力検査(4歳児)
7日(木)	健康診断①
8日(金)	サマーフェスタ(0-満3歳児)
9日(土)	サマーフェスタ(3-5歳児)
13日(水)	月礼拝
15日(金)	1学期終園日
16日(土)	IB PYP(国際バカロレア 初等教育プログラム) ワークショップ(職員対象)
17日(日)	
8月 1日(月)	小学1年生同窓会
26日(金)	夏期保育(1号認定児)
29日(月)	2学期始園日
31日(水)	月礼拝
9月 1日(木)	防災引渡訓練
2日(金)	プール納め
7日(水)	月礼拝
10日(土)	自然体験企画「都田川魚とり体験」
13日(火)	入園説明会(次年度入園希望3号認定児対象)
10月 1日(土)	プレイデー(運動会)3-5歳児 於:中高ソフトボール場
11日(火)	人形劇(むすび座)[保護者会主催]
12日(水)	月礼拝
17日(月)	自然体験企画「竹巻きパン作り」(5歳児)
18日(火)	園外保育(5歳児) 里山体験
19日(水)	
22日(土)	プレイデー(運動会、0-満3歳児)於:園庭
25日(火)	遠足(4歳児・動物園)、体力測定(5歳児)
26日(水)	遠足(3歳児・動物園)、体験型PYPワークショップ(保護者対象)
27日(木)	健康診断②

日付	内容
11月 2日(水)	自然体験企画「かんぴょう巻き作り」(3歳児)
8日(火)	園外保育(4歳児・ウアウト)
9日(水)	収穫感謝礼拝
10日(木)	収穫感謝訪問、アジア学院交流会(5歳)
12日(土)	幼児祝福式(3.5歳児希望者) 於:遠州栄光教会
14日(月)	お魚大好き食育講座(4・5歳児)
16日(水)	自然体験企画「すいとん作り」(4歳児)
18日(金)	入園オリエンテーション、制服採寸(次年度3歳入園児)
29日(火)	オープン保育デー(3歳児)
30日(水)	
12月 10日(土)	クリスマスのおどい(0-満3歳児)
13日(火)	学園クリスマスツリー点火祭
17日(土)	クリスマス礼拝と讃美のおどい(3-5歳児)
21日(水)	月礼拝
22日(木)	2学期終園日
23日(金)	クリスマスのおどい(満3歳児・入園予定者)
1月 8日(日)	園庭プロジェクト
10日(火)	3学期終園日、七草粥を食べよう(5歳児)
11日(水)	園外保育(5歳児) 里山体験
12日(木)	自然体験企画「五平餅作り」(5歳児)
14日(土)	親子運動遊び(ゲンキッズプラス)、 どうぶつしょうぎ[保護者会主催]
17日(火)	園外保育(5歳児) 里山体験
18日(水)	月礼拝
19日(木)	自然体験企画「味噌・豆乳作り」(4歳児)
2月 3日(金)	節分
8日(水)	月礼拝
9日(木)	自然体験企画「ポップコーン・こんにやく作り」(3歳児)
15日(水)	オープン保育デー(5歳児)
16日(木)	
17日(金)	交通安全教室(4.5歳児)
20日(月)	自然体験企画「竹巻きパン作り」(5歳児)
21日(火)	オープン保育デー(3歳児)
22日(水)	
28日(火)	オープン保育デー(4歳児)
3月 1日(水)	オープン保育デー(4歳児)、お別れイベント「ピザ作り」(5歳児)
3日(金)	ひなまつり
8日(水)	月礼拝
10日(金)	卒園お別れパーティー
15日(水)	卒園礼拝(5歳)
16日(木)	3学期終園日
18日(土)	卒園式(65名卒園)
30日(木)	IB PYP職員研修(こども園・小学校合同)
31日(金)	年度末職員研修

(3) 施設等の状況 (2023年3月31日現在)

現有施設の状況

土地

所在地	面積等	取得価額	摘要
静岡県浜松市北区三方原町 3453	41,813 m ²	434,456 千円	聖隷クリスファー大学キャンパス
	70,902 m ²	2,165,391 千円	聖隷クリスファー中高キャンパス
	501 m ²	57,133 千円	聖隷クリスファー小学校
静岡県浜松市北区根洗町 1102-3 他	9,998 m ²	164,587 千円	学園グラント用地
静岡県浜松市北区三方原町 2762	4,290 m ²	70,945 千円	クリスファーこども園(園舎・園庭)
合計	129,263 m ²	2,921,092 千円	

校舎等

所在地	施設等(建物名称)	面積等	取得価額	帳簿価額
静岡県浜松市北区 三方原町 3453	聖隷クリスファー大学(1号館)	9,068 m ²	2,338,542 千円	569,749 千円
	〃 (2号館)	4,026 m ²	721,978 千円	371,537 千円
	〃 (3号館)	4,727 m ²	902,099 千円	475,946 千円
	〃 (4号館)	1,199 m ²	194,260 千円	82,351 千円
	〃 (旧5号館旧棟)	2,623 m ²	305,909 千円	65,432 千円
	〃 (5号館)	5,134 m ²	948,666 千円	688,731 千円
	〃 (機械室)	11 m ²	1,124 千円	320 千円
	〃 (学生・同窓会館)	964 m ²	155,433 千円	41,805 千円
	〃 (キリスト教センター)	78 m ²	19,749 千円	6,875 千円
	〃 (第一体育館)	781 m ²	237,883 千円	106,292 千円
	〃 (第二体育館)	495 m ²	46,702 千円	14,811 千円
〃 (第一テニスクラブハウス)	35 m ²	10,754 千円	1,472 千円	
聖隷クリスファー大学 合計		29,141 m ²	5,883,098 千円	2,425,321 千円
静岡県浜松市北区 三方原町 3453	専門学校棟	574 m ²	160,760 千円	91,732 千円
聖隷クリスファー大学介護福祉専門学校 合計		574 m ²	160,760 千円	91,732 千円
静岡県浜松市北区 三方原町 3453 他	聖隷クリスファー中・高等学校(校舎)	9,332 m ²	1,622,974 千円	995,654 千円
	〃 (体育館)	4,369 m ²	769,645 千円	426,390 千円
	〃 (総合運動場クラブハウス)	176 m ²	34,011 千円	14,695 千円
	〃 (第二テニスクラブハウス)	106 m ²	17,379 千円	8,784 千円
	〃 (サッカー場クラブハウス)	193 m ²	36,003 千円	20,671 千円
	〃 (新ソフトボール場クラブハウス)	188 m ²	116,180 千円	116,180 千円
	〃 (野球部部室)	62 m ²	20,855 千円	8,777 千円
	〃 (ガス整圧室、ポンプ室)	15 m ²	29,800 千円	7,812 千円
〃 (ソフトボール場倉庫)	65 m ²	1,908 千円	480 千円	
聖隷クリスファー中・高等学校 合計		14,506 m ²	2,648,755 千円	1,599,443 千円
静岡県浜松市北区 三方原町 3453	聖隷クリスファー小学校校舎	3,463 m ²	1,006,676 千円	909,890 千円
聖隷クリスファー小学校 合計		3,499 m ²	1,006,676 千円	909,890 千円
静岡県浜松市北区 三方原町 2762	クリスファーこども園園舎	2,139 m ²	503,306 千円	328,074 千円
聖隷クリスファー大学附属クリスファーこども園 合計		2,139 m ²	503,306 千円	328,074 千円
総合計		49,823 m ²	10,202,595 千円	5,654,460 千円

3 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表は資産（土地や建物など）が何によってどのようなバランスで賄われているかを表し、財務の健全性を示したものです。

資産は、固定資産が対前年度比 4 億 547 万円増の 105 億 2,081 万円となり、流動資産は対前年度比 4,928 万円増の 50 億 835 万円となり、総資産額は対前年度比 4 億 5,475 万円増の 155 億 2,916 万円となりました。これらの主な要因は、有形固定資産の増加によるものです。

負債は、負債の部合計が前年度比 1 億 2,855 万円増の 39 億 8,753 万円となりました。主な要因は長期借入金 3 億 3590 万円の増加によるものです。

校舎建設、土地購入などによる借入金のための負債の割合が高いですが、総資産の 74.3% は自己資金で賄われていることにより、財務の安定性は十分な余力があることがわかります。

また、借入金は現状のキャッシュフローにおいて最短約 2.7 年での全額返済が可能であり、十分な返済能力を備えていると認識しております。

(単位:百万円)

資産の部合計	15,529	負債の部合計	3,987
(主な内容)		(主な内容)	
(現金預金	4,856)	(借入金	1,695)
(土地	2,921)	(前受金	1,502)
(建物	5,654)	自己資金	11,542

【有利子負債返済可能年数】

$$\frac{\text{借入金 } 1,695 \text{ 百万円}}{\text{学校運営にかかるキャッシュフロー } 635 \text{ 百万円}} = 2.7 \text{ 年}$$

◎経年比較

(単位:千円)

	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
固定資産	9,062,505	10,205,261	10,118,619	10,115,343	10,520,809
流動資産	5,403,749	4,260,622	4,683,921	4,959,069	5,008,354
資産の部合計	14,466,254	14,465,883	14,802,540	15,074,412	15,529,163
固定負債	2,268,417	2,134,312	2,009,884	1,908,511	2,070,535
流動負債	1,989,263	1,930,195	1,997,020	1,950,474	1,916,996
負債の部合計	4,257,680	4,064,507	4,006,904	3,858,985	3,987,531
基本金	14,097,544	15,488,669	15,893,807	16,290,555	16,844,508
繰越収支差額	△ 3,888,970	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,876
純資産の部合計	10,208,574	10,401,376	10,795,636	11,215,427	11,541,632
負債及び純資産の部合計	14,466,254	14,465,883	14,802,540	15,074,412	15,529,163

イ) 財務比率の経年比較

区 分			評 価	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	全国平均 2021年度	
貸借対照表関係比率	1	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	62.6%	70.5%	68.4%	67.1%	67.7%	85.9%
	2	流動資産 構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	△	37.4%	29.5%	31.6%	32.9%	32.3%	14.1%
	3	固定負債 構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	▼	15.7%	14.8%	13.6%	12.7%	13.3%	6.6%
	4	流動負債 構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	▼	13.8%	13.3%	13.5%	12.9%	12.3%	5.4%
	5	運用資産 余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	0.88年	0.59年	0.73年	0.79年	0.74年	2.02年
	6	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	271.6%	220.7%	234.5%	254.2%	261.3%	262.9%
	7	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	29.4%	28.1%	27.1%	25.6%	25.7%	12.0%
	9	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	87.7%	89.2%	90.5%	91.3%	90.6%	97.3%
	10	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	△	338.2%	278.0%	290.8%	310.2%	323.3%	373.5%
	11	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	72.2%	54.9%	57.2%	58.3%	57.5%	78.4%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい -:どちらともいえない

※全国平均:2021(R3)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	2,622,592	2,612,964	2,713,748	2,855,963	2,901,118
手数料収入	58,904	60,231	60,149	58,929	59,359
寄付金収入	53,901	79,218	86,959	119,016	77,436
補助金収入	797,235	785,248	969,673	989,263	1,079,958
資産売却収入	249	20	0	11	0
付随事業・収益事業収入	15,441	17,490	22,792	25,390	22,471
受取利息・配当金収入	1,799	1,134	907	857	700
雑収入	137,017	93,144	97,803	90,058	64,810
借入金等収入	0	0	0	0	335,900
前受金収入	1,554,589	1,486,143	1,543,572	1,528,913	1,502,155
その他の収入	84,557	130,945	155,046	189,647	220,880
資金収入調整勘定	△ 1,632,786	△ 1,655,451	△ 1,664,295	△ 1,731,533	△ 1,654,968
前年度繰越支払資金	4,928,382	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283
収入の部合計	8,621,883	8,868,202	8,118,388	8,615,785	9,353,102

支出の部	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	2,345,026	2,335,462	2,364,671	2,473,006	2,561,147
教育研究経費支出	491,602	519,578	569,627	615,874	678,073
管理経費支出	257,188	295,989	273,828	300,617	326,118
借入金等利息支出	29,949	27,685	25,303	22,980	21,089
借入金等返済支出	151,660	151,660	151,660	153,520	138,600
施設関係支出	68,444	1,150,657	97,121	183,179	637,981
設備関係支出	73,571	152,881	113,657	115,983	104,100
資産運用支出	250	94,222	454	0	0
その他の支出	130,132	200,845	204,156	211,635	199,253
資金支出調整勘定	△ 183,055	△ 192,811	△ 171,360	△ 204,292	△ 169,250
次年度繰越支払資金	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991
支出の部合計	8,621,883	8,868,202	8,118,388	8,615,785	9,353,102

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

「資金収支計算書」は学校法人の資金の出入りを表す財務諸表で、一般企業のキャッシュフロー計算書に類するものです。2015年度から学校法人会計基準の改正に伴い、新たに活動区分ごとの資金の流れがわかる「活動区分資金収支計算書」の作成が義務付けられました。下記は活動区分ごとの示した表となっております。

2022年度は教育研究活動により発生した資金は6億4,060万円でした。施設・設備投資には7億4,208万円を充当しました。この中には、ソフトボール場整備には、約4億7,000万円が含まれており、長期借入金3億3,590万円を充当しております。

これら法人全体の事業活動により、前年度より資金が約1億1,271万円増加しました。

(単位:千円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,684,876	3,641,524	3,946,464	4,106,847	4,203,585
教育活動資金支出計	3,093,816	3,151,029	3,208,126	3,389,497	3,559,278
差引	591,060	490,495	738,338	717,350	644,307
調整勘定等	55,688	△ 87,598	60,656	△ 7,426	△ 3,708
教育活動資金収支差額	646,748	402,897	798,994	709,924	640,599
施設設備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	465	6,791	3,659	30,784	1,567
施設整備等活動資金支出計	142,015	1,303,537	210,777	299,162	742,081
差引	△ 141,550	△ 1,296,746	△ 207,118	△ 268,378	△ 740,514
調整勘定等	△ 11,101	38,550	△ 34,624	18,729	20,432
施設整備等活動資金収支差額	△ 152,651	△ 1,258,196	△ 241,742	△ 249,649	△ 720,082
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	494,097	△ 855,299	557,252	460,275	△ 79,483
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	23,971	16,076	56,072	13,377	369,522
その他の活動資金支出計	191,620	286,851	184,201	218,465	187,988
差引	△ 167,649	△ 270,775	△ 128,129	△ 205,088	181,534
調整勘定等	2,286	992	△ 71,886	△ 1,175	10,657
その他の活動資金収支差額	△ 165,363	△ 269,783	△ 200,015	△ 206,263	192,191
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	328,734	△ 1,125,082	357,237	254,012	112,708
前年度繰越支払資金	4,928,382	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283
翌年度繰越支払資金	5,257,116	4,132,034	4,489,271	4,743,283	4,855,991

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

区分	評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均 2021年度
教育活動資金 収支差額比率	△	17.6%	11.1%	20.2%	17.3%	15.2%	15.6%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい —:どちらともいえない

※全国平均:2021(R3)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書は学校運営の収入と支出の内容を表したもので、一般企業の損益計算書に類するものです。

事業活動収支差額は3億2,621万円のプラスとなりました。この収支差額は前年度決算額よりも9,357万円減少しています。

《各部門別》

(単位:千円)

科目	法人	大学	高等学校	中学校	小学校	こども園	専門学校	合計	
事業活動収入	学生生徒等納付金	0	2,163,348	463,683	66,679	151,980	18,888	36,540	2,901,118
	手数料(入学検定料含む)	3,028	34,266	19,686	867	960	0	552	59,359
	寄付金	0	31,134	33,362	4,530	6,642	10	240	75,918
	補助金	0	343,513	361,280	52,490	81,756	235,589	5,330	1,079,958
	付随事業・雑収入等	769	59,248	4,220	371	979	21,291	403	87,281
	教育活動外収入(受取利息等)	0	438	150	21	39	45	7	700
	特別収入(施設設備、現物寄付金等)	0	10,676	1,485	0	163	0	0	12,324
	合計	3,797	2,642,623	883,866	124,958	242,519	275,823	43,072	4,216,658
事業活動支出	人件費	58,144	1,447,067	500,021	130,888	191,977	184,597	31,394	2,544,088
	教育研究経費	0	607,588	181,174	28,007	71,981	61,018	15,681	965,449
	(うち減価償却額)	0	147,371	61,873	4,697	46,548	21,920	4,917	287,326
	管理経費	45,843	137,422	96,984	18,979	42,511	8,332	3,564	353,635
	(うち減価償却額)	11,344	5,330	139	26	32	323	48	17,242
	徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出(借入金利息等)	0	5,598	15,491	0	0	0	0	21,089
	特別支出(資産処分差額等)	0	6,119	73	0	0	0	0	6,192
合計	103,987	2,203,794	793,743	177,874	306,469	253,947	50,639	3,890,453	
経常収支差額	△ 100,190	434,272	88,711	△ 52,916	△ 64,113	21,876	△ 7,567	320,073	
事業活動収支差額	△ 100,190	438,829	90,123	△ 52,916	△ 63,950	21,876	△ 7,567	326,205	

◎経年比較

(単位:千円)

科目	年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,622,867	2,613,134	2,713,748	2,855,963	2,901,118
	手数料	58,904	60,231	60,149	58,929	59,359
	寄付金	54,582	79,001	85,488	117,546	75,918
	経常費等補助金	797,235	778,693	967,620	959,961	1,079,958
	付随事業収入	15,441	17,490	21,792	24,390	22,471
	雑収入	137,018	93,144	100,187	90,058	64,810
	教育活動収入計	3,686,047	3,641,693	3,948,984	4,106,847	4,203,634
	事業活動支出の部					
	人件費	2,347,868	2,338,082	2,372,133	2,483,157	2,544,088
	教育研究経費	759,069	750,261	840,864	889,001	965,449
	管理経費	287,131	324,037	309,059	335,568	353,635
	徴収不能額等	275	170	0	9	0
	教育活動支出計	3,394,343	3,412,550	3,522,056	3,707,735	3,863,172
	教育活動収支差額	291,704	229,143	426,928	399,112	340,462

(単位:千円)

科目		年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動外收支	事業活動収入の部						
		受取利息・配当金	1,799	1,134	907	857	700
		その他の教育活動外収入	0	0	1,000	1,000	0
		教育活動外収入 計	1,799	1,134	1,907	1,857	700
	事業活動支出の部						
		借入金等利息	29,949	27,685	25,303	22,980	21,089
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	29,949	27,685	25,303	22,980	21,089	
	教育活動外収支差額	△ 28,150	△ 26,551	△ 23,396	△ 21,123	△ 20,389	
経常収支差額			263,554	202,592	403,532	377,989	320,073
特別収支	事業活動収入の部						
		資産売却差額	249	20	0	0	0
		その他の特別収入	12,660	13,753	13,462	42,483	12,324
		特別収入 計	12,909	13,773	13,462	42,483	12,324
	事業活動支出の部						
		資産処分差額	2,240	2,017	1,186	681	132
		その他の特別支出	21,547	21,547	21,547	0	6,060
	特別支出 計	23,787	23,564	22,733	681	6,192	
	特別収支差額	△ 10,878	△ 9,791	△ 9,271	41,802	6,132	
基本金組入前当年度収支差額			252,676	192,801	394,260	419,791	326,205
基本金組入額合計			△ 267,623	△ 1,391,124	△ 406,093	△ 404,109	△ 553,954
当年度収支差額			△ 14,947	△ 1,198,323	△ 11,833	15,682	△ 227,749
前年度繰越収支差額			△ 3,874,023	△ 3,888,970	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128
基本金取崩額			0	0	955	7,361	0
翌年度繰越収支差額			△ 3,888,970	△ 5,087,293	△ 5,098,171	△ 5,075,128	△ 5,302,877

(参考)

事業活動収入 計	3,700,755	3,656,600	3,964,353	4,151,187	4,216,658
事業活動支出 計	3,448,079	3,463,799	3,570,092	3,731,396	3,890,453

イ) 財務比率の経年比較

区 分			評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均 2021年度	
事業活動収支計算書関係比率	1	人件費比率	人件費 経常収入	▼	63.7%	64.2%	60.0%	60.4%	60.5%	51.3%
	2	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	▼	89.5%	89.5%	87.4%	86.9%	87.7%	69.7%
	3	教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	△	20.6%	20.6%	21.3%	21.6%	23.0%	34.3%
	4	管理経費比率	管理経費 経常収入	▼	7.8%	8.9%	7.8%	8.2%	8.4%	8.3%
	5	借入金等利息比率	借入金等利息 経常収入	▼	0.8%	0.8%	0.6%	0.6%	0.5%	0.1%
	6	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度 収支差額	△	6.8%	5.3%	9.9%	10.1%	7.7%	6.4%
	7	基本金組入後収支比率	事業活動支出 事業活動収入-基本金組入額	▼	100.4%	152.9%	100.3%	99.6%	106.2%	104.1%
	8	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	-	71.1%	71.7%	68.7%	69.5%	69.0%	73.6%

区 分			評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均 2021年度	
事業活動収支計算書関係比率	9	寄付金比率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	△	1.8%	2.4%	2.4%	3.1%	1.8%	2.2%
	10	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	△	21.5%	21.5%	24.5%	23.8%	25.6%	14.3%
	11	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	△	7.2%	38.0%	10.2%	9.7%	13.1%	10.1%
	12	減価償却額比率	$\frac{\text{減 価 償 却 額}}{\text{経 常 支 出}}$	-	8.3%	7.2%	8.1%	7.8%	7.8%	11.8%
	13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}}$	△	7.1%	5.6%	10.2%	9.2%	7.6%	5.9%
	14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教 育 活 動 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 収 入 計}}$	△	7.9%	6.3%	10.8%	9.7%	8.1%	4.2%

(評価)△:高いほうがよい ▼:低いほうがよい -:どちらともいえない

※全国平均:2021(R3)年度大学法人平均(医歯系法人を除く)「日本私立学校振興・共済事業団」より

(2) その他

① 有価証券の状況

所有しておりません

② 借入金の状況

(単位:円)

借 入 先	期末残高	摘 要
		使 途
日本私立学校振興・共済事業団	908,840,000	大学5号館建築、運動場用地 労作用地、セミナーハウス棟建築 新ソフトボール場整備
遠州信用金庫中川支店	226,800,000	高校校舎用地購入、高校校舎建築
りそな銀行浜松支店	79,600,000	高校校舎建築
浜松磐田信用金庫三方原支店	260,970,000	高校校舎用地購入、運動場整備 校舎建築、大学5号館建築
静岡銀行浜松営業部	219,100,000	高校校舎建築、大学3号館建築
合 計	1,695,310,000	

③ 学校債の状況

発行しておりません

④ 寄付金の状況

(単位:円)

区分	氏名	金額	用途・品目等
一般寄付金	個人(1名)	36,098	
	聖隷クリストファー中・高等学校PTA様	3,173,363	
	聖隷クリストファー中・高等学校後援会様	4,309,000	
	聖隷クリストファー中・高等学校学年会計	5,653,571	
	合計	13,172,032	
特別寄付金	個人(241名)	14,916,630	部活動支援、外国人留学生支援 他
	株式会社星医療酸器様	200,000	教員の研究に対する資金
	聖隷クリストファー大学同窓会様	100,000	図書購入資金
	聖隷クリストファー大学後援会様	18,379,027	スクールバス補助、学生食堂光熱水費 他
	聖隷クリストファー中・高等学校後援会様	28,587,520	スクールバス補助
	聖隷クリストファー中・高等学校PTA様	613,088	学生用コピー用紙補助、カフェテリア経費
	聖隷クリストファー高等学校2020年度卒業生様	1,467,400	卒業記念品購入資金
	合計	64,263,665	
現物寄付金	個人(30名)	10,561,873	科研費補助金購入備品 他
	聖隷クリストファー大学後援会様	135,844	ノートパソコン
	ローランド株式会社様	109,000	ローランド社製電子ピアノ
	合計	10,806,717	

寄付金合計 88,242,414

⑤ 補助金の状況

(単位:円)

補助金名称	交付団体	施設	決定金額
私立大学等経常費補助金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	238,278,000
大学等における修学の支援に関する法律による令和4事業年度授業料等減免費交付金	日本私立学校振興・共済事業団	大学	76,666,100
令和4年度学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援事業)	文部科学省	高校	200,000
		中学	70,000
		小学校	68,000
理科教育設備整備費等補助金	文部科学省	中学	172,000
新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金支給	厚生労働省	こども園	50,917
大学生等学びの継続支援事業費補助金	静岡県	大学	27,760,320
		大学院	391,100
		専門学校	948,080
私立学校経常費補助金	静岡県	高校	293,543,000
		中学	51,463,000
		小学校	78,901,000
静岡県私立高等学校授業料減免事業費補助金	静岡県	高校	62,957,400
私立学校物価高騰対策支援金	静岡県	高校	2,205,000
		中学	295,000
		小学校	540,000
		専門学校	240,000
高等学校等就学支援金事務費補助金	静岡県	高校	851,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金 (学習指導員配置等事業)	静岡県	小学校	840,000
私立学校サポートスタッフ配置等事業費補助金 (スクールカウンセラー配置等事業)	静岡県	小学校	600,000
私立専修学校運営費補助金	静岡県	専門学校	2,621,000
令和4年度私立専門学校就学支援事業費補助金	静岡県	専門学校	1,500,000
児童福祉施設等物価高騰対策支援金	静岡県	こども園	360,000
浜松市ウエルネス認証事業費補助金	浜松市	大学	63,000
結核健康診断費補助金	浜松市	大学	354,640
		高校	343,200
		専門学校	20,973
私立学校教育振興事業費補助金	浜松市	高校	1,180,800
		中学	490,400
		小学校	806,800
施設型給付費	浜松市	こども園	200,630,349
私立保育所等入所児童処遇向上費補助金	浜松市	こども園	10,690,000
私立保育所等事業費補助金	浜松市	こども園	14,289,000
保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業	浜松市	こども園	2,867,280
浜松市幼稚園型一時預かり事業費補助金	浜松市	こども園	2,840,600
浜松市在園児下の子の優先利用支援事業費補助金	浜松市	こども園	2,406,000
私立保育所等新型コロナウイルス感染症対策事業	浜松市	こども園	500,000
保育施設等物価高騰対策助成事業(光熱費)	浜松市	こども園	492,000
子ども子育て支援教育・保育給付費	森町	こども園	462,672
合計			1,079,958,631

収益事業会計 損益計算書

令和4年 4月 1日から

令和5年 3月31日まで (単位：円)

科目	金額
1. 営業損益	
(1) 営業収益	
家賃収入	10,518,700
計	10,518,700
(2) 営業費用	
報酬委託手数料	1,366,291
水道光熱費	879,261
修繕費	1,076,244
建物保全費	392,500
保険料	128,480
公租公課	916,500
減価償却費	2,800,923
雑費	26,003
計	7,586,202
営業利益	2,932,498
2. 営業外損益	
(1) 営業外収入	
受取利息	61
雑収入	3,000
計	3,061
(2) 営業外費用	
支払利息	255,360
計	255,360
経常利益	2,680,199
学校会計繰入前利益	2,680,199
学校会計繰入支出	0
税引き前当期純利益	2,680,199
法人税、住民税及び事業税	
当期純利益	2,680,199
前期繰越利益	8,041,765
繰越利益剰余金	10,721,964

注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

…定額法を採用している。

(2) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

…消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式を採用している。

2. 減価償却額の累計額の合計額 9,309,458円

⑦ 関連当事者等との取引の状況

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位:円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業内容又は職業	議決権の所有割合	関係の内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
理事長	長谷川 了	—	—	—	—	—	—	当法人の借入に対する債務被保証(注1)	514,300,000	—	—
理事	青木 善治	—	—	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 理事長	—	—	設備の賃借	実習控室借用料(注2)	3,960,000	教育研究経費	—
							健康診断委託	学生生徒検診委託料(注2)	4,021,314	教育研究経費	—
							実習受入	実習受入謝礼(注2)	4,029,500	教育研究経費	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

※取引金額は消費税込み

(注1)当法人は、金融機関等からの借入に対して、理事長 長谷川了より債務保証を受けており、取引金額は令和5年3月末残高である。

なお、保証料の支払いは行っていない。

(注2)理事 青木善治が、第三者(社会福祉法人 聖隷福祉事業団)の代表者として行っている取引である。

取引条件は双方協議の上、契約等に基づき決定している。

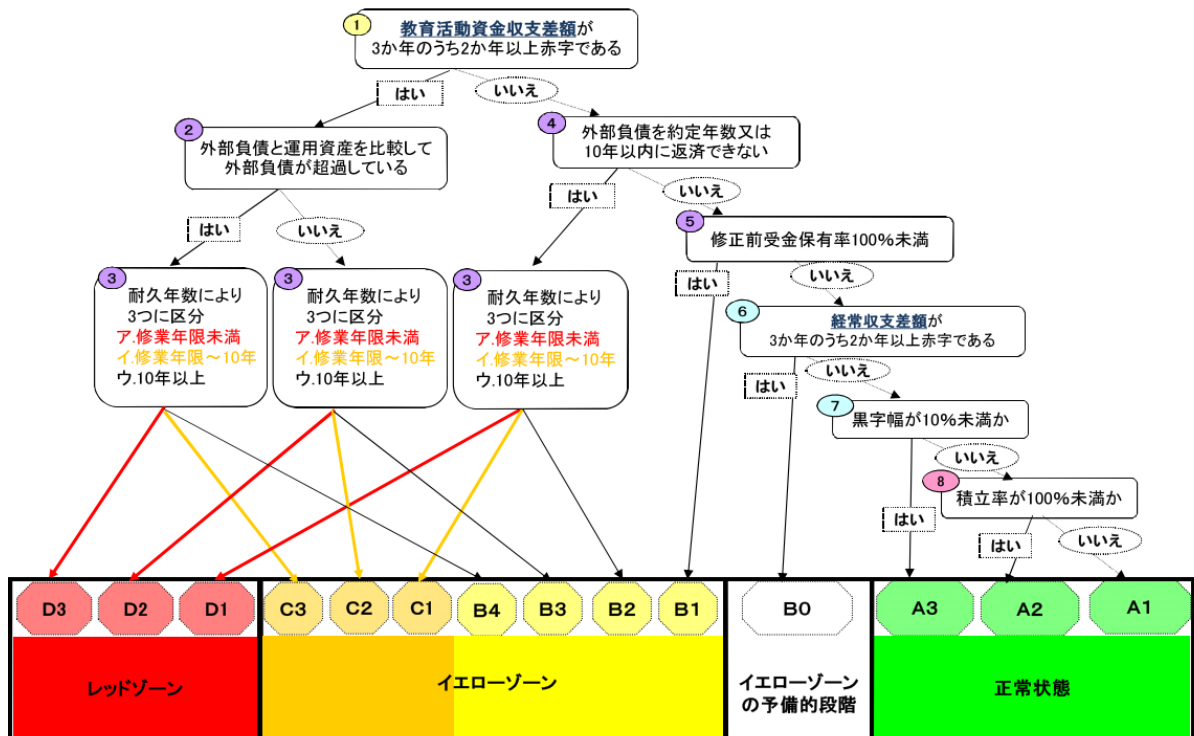
⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方針

① 経営判断指標に基づく学校法人経営状態の区分から

日本私立学校振興・共済事業団では、私立学校への適切な指導を行うために、学校法人の経営状態を定量的な指標により14通りに分類しています。この指標に基づき自己診断したところ、本学園は経常収支差額比率7.6%で、A3ランクに分類され、財務状況は正常な状態にあります。



② 2022 年度決算概要について

学生・生徒・児童・園児数は、高等学校入学者増、小学校学年進行に伴い、学園全体で 3,179 名となり、前年度から 102 名増加しています。定員充足率は学園全体で 98.7%（対前年度比 2.3 ポイント増）となりました。

事業活動収入は、4,216,658 千円（対前年度 65,472 千円増）、事業活動支出は 3,890,453 千円（対前年度 159,058 千円増）となり、収支差額は 326,205 千円（対前年度 93,586 千円減）となりました。収入については、生徒、児童数増に伴い納付金が 45,155 千円増、補助金についても 119,997 千円増（うち授業料減免補助金は 40,118 千円増）しております。一方、支出で大きな割合を占める人件費は、小中高で生徒数増に伴う教員増の為、60,933 千円の増加となりました。納付金増の影響もあり、人件費比率は法人全体で 60.5%（同 0.1 ポイント増）に留まりました。

施設・設備の整備については、ソフトボール場整備工事を行いました。移転用地購入 63,000 千円含め、造成工事、クラブハウス建築等総額 470,486 千円となりました。資金面では、自己資金に加え、長期借入金 335,900 千円で賄っております。

その他、学園駐車場整備 33,303 千円、2023 年 4 月大学国際教育学部開設準備 7,060 千円、大学・中高 ICT 関連教育環境充実 30,089 千円、その他、エアコン取替、LED 照明取替等 80,647 千円など教育環境の充実を行いました。

こうした状況のもとで、2022 年度の事業活動収支差額比率は、法人全体で 7.7%（対前年度比 2.4 ポイント減）となりました。

法人全体における教育活動のキャッシュフローは 640,599 千円（2021 年度 709,924 千円）のプラスになります。施設整備等活動のキャッシュフローは△720,082 千円で、これは前述の施設・設備の整備によるものです。その他活動のキャッシュフローは 192,191 千円となります。次年度繰越支払資金は 112,708 千円増となり、繰越支払資金は 4,855,991 千円となりました。

今後、教育研究保育環境の充実・整備を図りつつ、中長期経営計画実現に向け財源を継続して確保する必要があります。事業の継続ならびに新規構想の推進には財政基盤の強化が必要であり、自主財源の確保は、入学入園者見込数を確実に確保していくこと、支出については、その 60%以上を占める人件費政策を行うことが必須となります。

③各学校別財務比率から

<学校法人全体の主要財務指標の内容>

ここでは主に下記の指標を用いて 2022 年度決算における経営状況および改善傾向を把握することができます。

①収容定員充足率 = 学生現員 ÷ 収容定員

定員に対する学生数の割合を示したものです。100%であることが理想です。

②経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入

③流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

短期的な資金繰りの余裕度合を表したもので、150~200%が理想的です。

④運用資産余裕比率 = (運用資産*1 - 外部負債*2) ÷ 経常支出 …法人全体のみ

*1 運用資産=現預金+特定預金 *2 外部負債=総負債-退職給与引当金-前受金

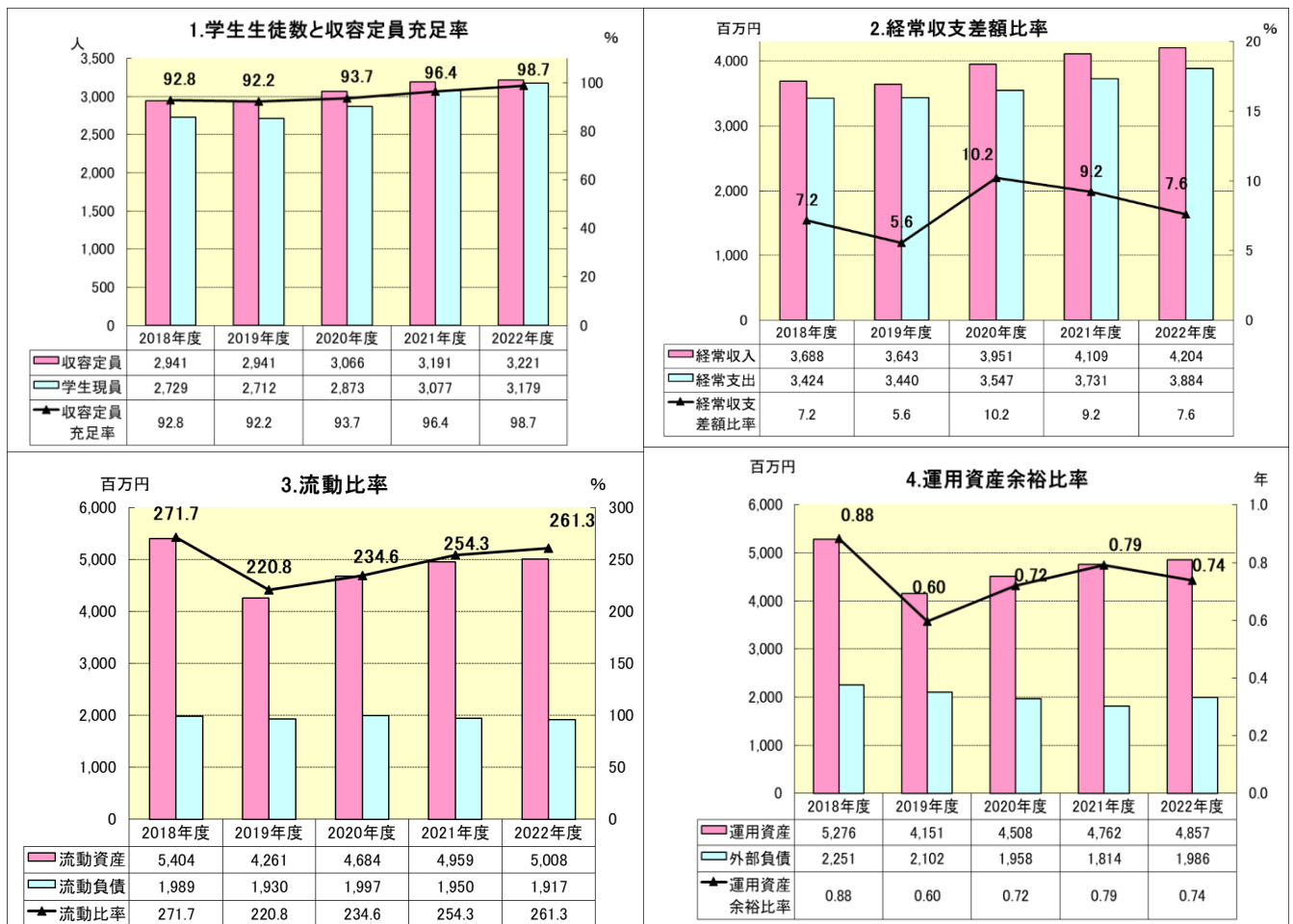
実質的な運用資産を年間の支出に対してどれだけ保有しているかを示すものです。

法人全体

2022 年度は小学校開設 3 年目を迎え、法人全体の収容定員充足率 98.7%となりました。経常収支差額比率 7.6%、流動比率は 261.3%、運用資産余裕比率は 0.74 年となっております。

2022 年度は、2019 年度に小学校開設準備費用として自己資金約 11 億 8 千万円執行した事により、財務比率は一旦、低下しましたが、2020 年度以降は改善傾向であり、小学校の完成年度に向けて、徐々に改善していくことと思われま。

2022 年度決算(法人全体)



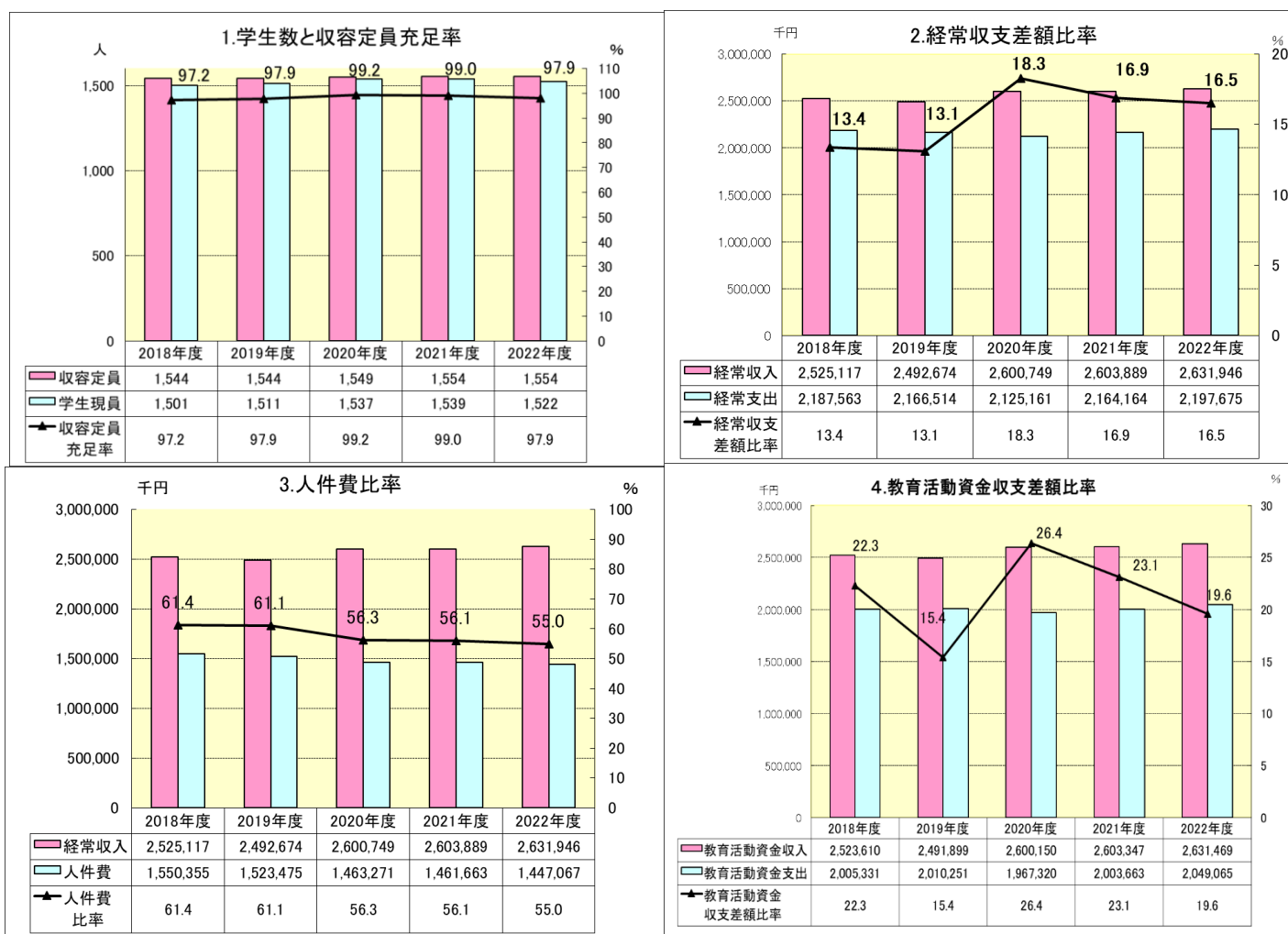
◆ 各学校の主要財務指標の内容

学校別の財務内容については下記指標を用いて算出しました。

- ① 収容定員充足率 = 学生(生徒・園児)現員 ÷ 収容定員
- ② 経常収支差額比率 = 経常収支差額 ÷ 経常収入
- ③ 人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入
 経常収入に対する教職員の人件費の割合を表したものです。
- ④ 教育活動資金収支差額比率 = 教育活動資金収支差額 ÷ 教育活動資金収入計
 教育活動でキャッシュフローが生み出されているかを表したものです

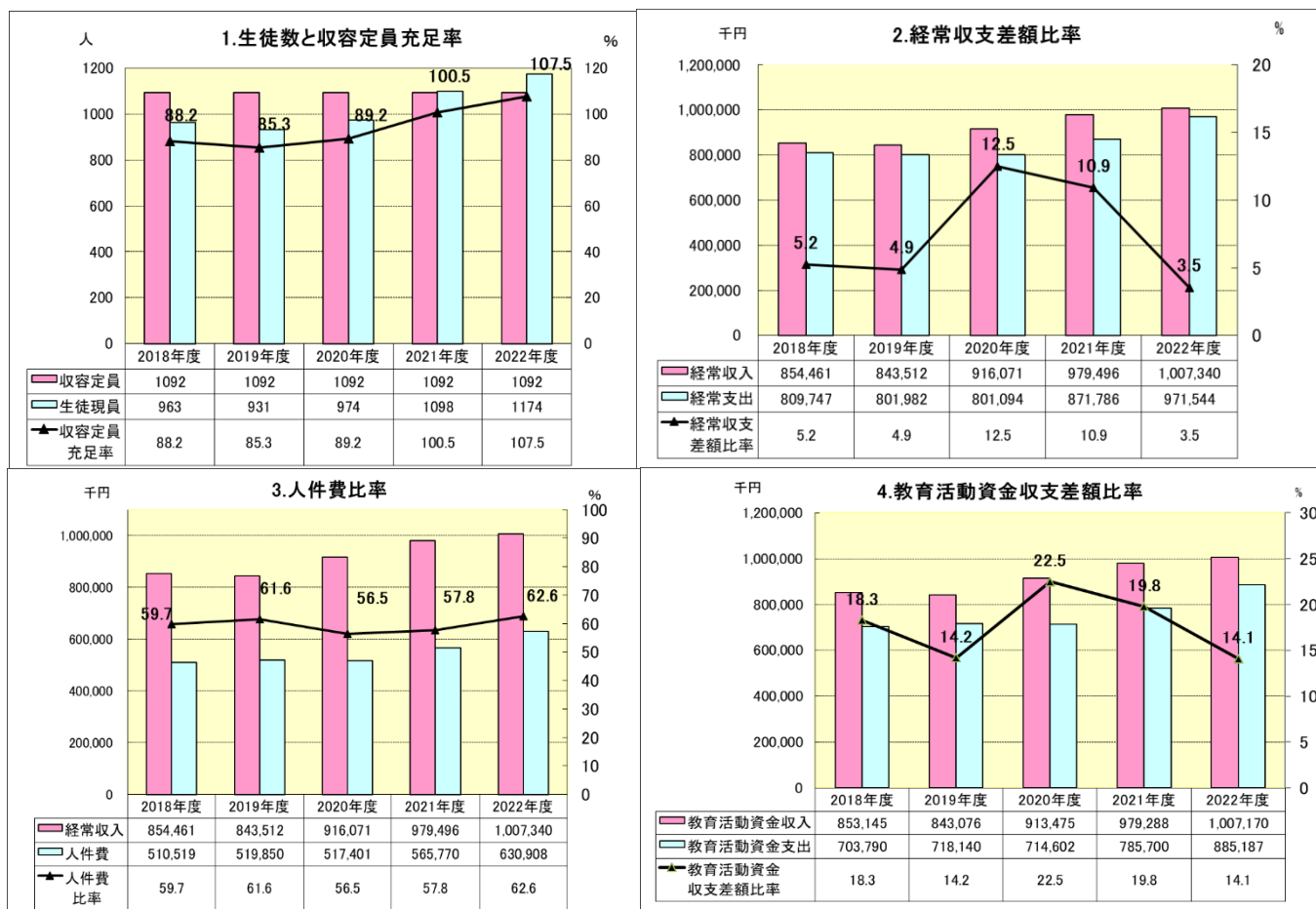
聖隷クリストファー大学

2022年度決算(大学全体)



聖隷クリストファー中・高等学校

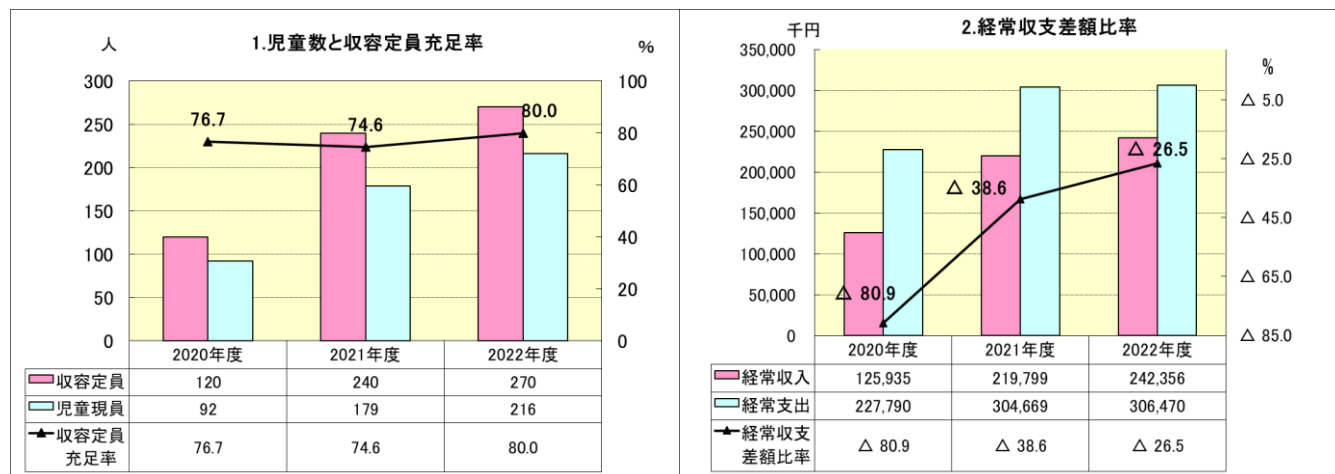
2022年度決算（中・高等学校）

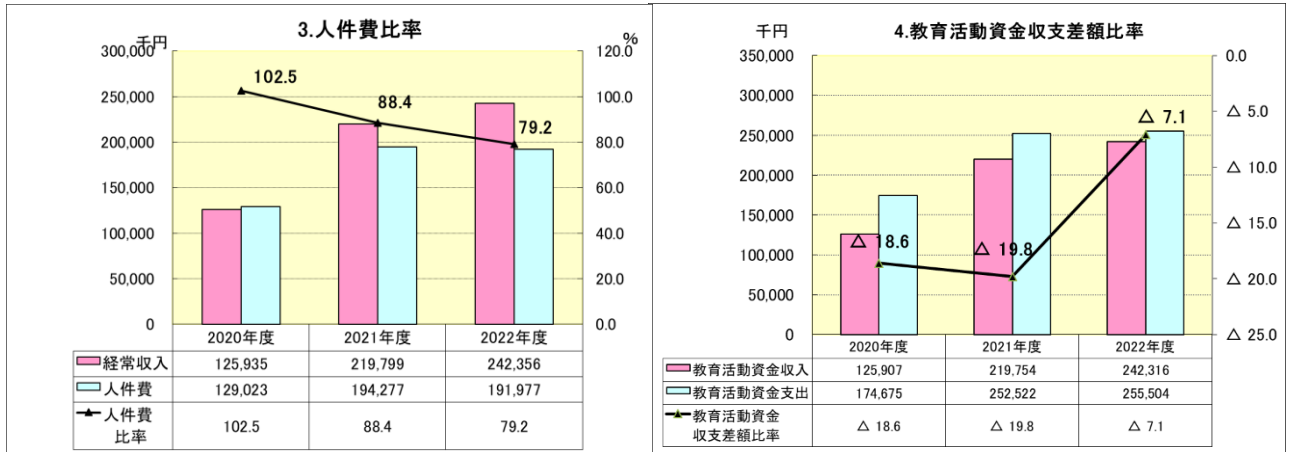


聖隷クリストファー小学校

2022年度決算（小学校）

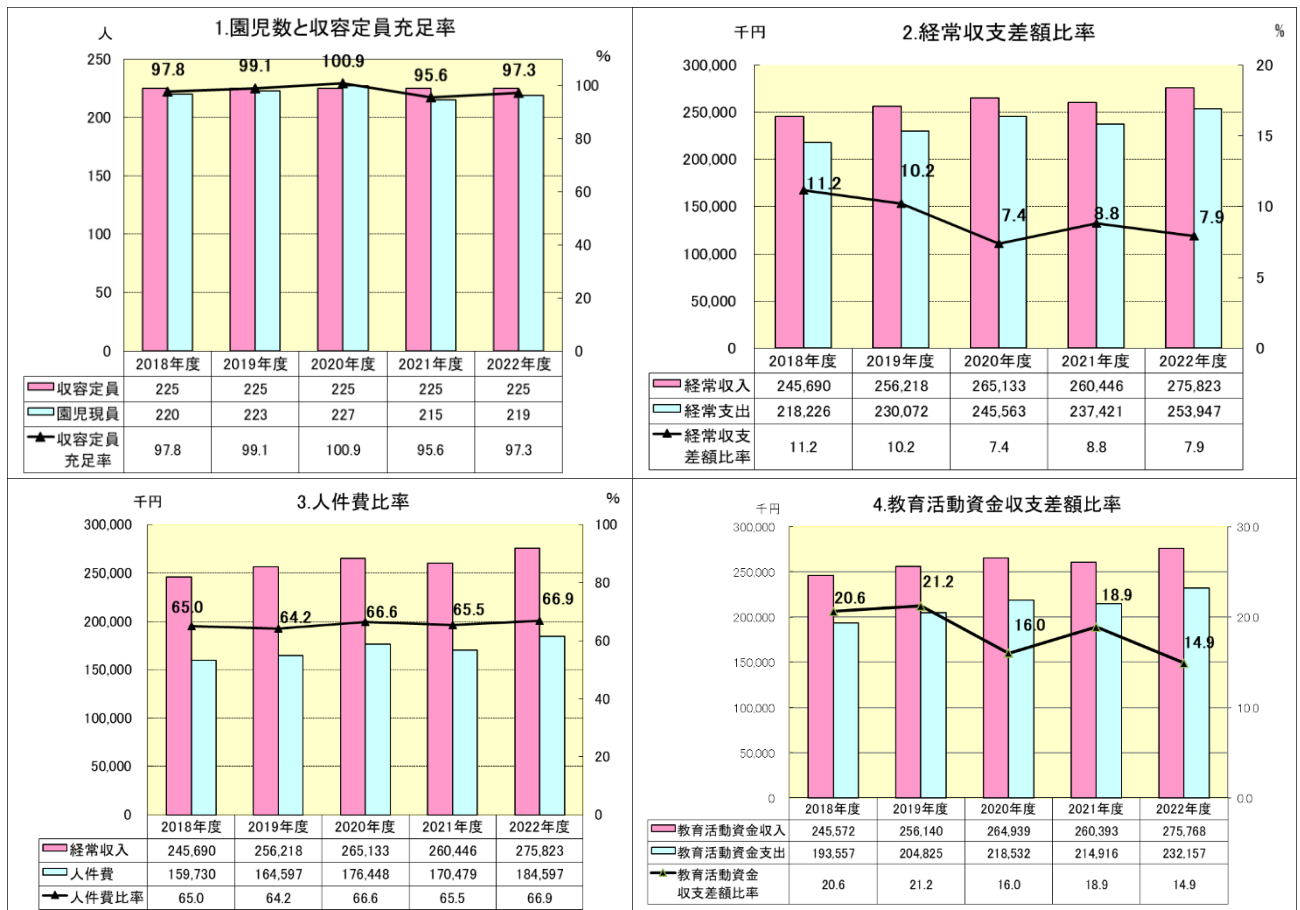
聖隷クリストファー小学校は、2020年度4月開校のため過去3年間分となります。





聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園

2022年度決算（こども園）



聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

2022年度決算（専門学校）

